

もくじ

もくじ	1
はじめに	5
やりたいことを探そう！	10

1章 本体の機能

15

1 各部の名前	16
① 前面図	16
② 背面図	17
③ 裏面図	18
2 インジケータとボタン	20
① システムインジケータ	20
② ワンタッチボタン	21
③ イージーボタンユーティリティ	24
3 キーボード	26
① キーボード図	26
② キーシフトインジケータの切り替え	28
③ キーを使った便利な機能	29
4 タッチパッド	32
① タッチパッドを設定するには	32
② タッピング機能	32
③ その他の設定	35
5 ディスプレイ	37
① ディスプレイの設定	37
6 ハードディスクドライブ	43
① ハードディスクドライブに関する表示	43
7 サウンド機能	44
① スピーカの音量を調整する	44
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	45
8 ドライブ	46
① 使用できるメディアと対応するアプリケーション	46
② 使用できるCD	47
③ 使用できるDVD	48

9	SDメモ리카ード	50
①	SDメモ리카ードについて	50
②	SDメモ리카ードのセットと取り出し	51
③	SDメモ리카ードを使う前に	52
10	セキュリティロック	54

2章 音楽と映像

55

1	音楽CDを聴く	56
①	音楽CDを再生する	56
2	音楽ファイルを聴く	60
①	BeatJamでファイルを再生する	60
②	Windows Media Playerでファイルを再生する	64
3	オリジナル音楽CDを作る	68
①	Drag'n Drop CD + DVDを使うために	68
②	Drag'n Drop CD + DVDを使う	69
③	Drag'n Drop CD + DVDを終了する	72
4	DVD-Videoを観る	73
①	InterVideo WinDVDを起動する	74
②	InterVideo WinDVDを使う	75
5	デジタルカメラの写真を編集/整理する	79
①	デジカメ Walkerを使う	79
6	映像を編集する	82
①	映像データをパソコンに取り込む	82
②	MotionDV STUDIOで映像データを編集する	85

3章 通信機能

93

1	LANへ接続する	94
①	ケーブルを使ったLAN接続(有線LAN)	94
②	ケーブルを使わないLAN接続(無線LAN)	96
③	ネットワーク設定に便利な機能	106
2	内蔵モデムについて	110
①	海外でインターネットに接続する	110

4章 周辺機器の接続

113

- 1 周辺機器について 114
 - ① 周辺機器を使う前に 115
- 2 PCカードを接続する 116
 - ① PCカードを使う前に 116
 - ② PCカードを使う 117
- 3 USB対応機器を接続する 120
- 4 プリンタを接続する 122
 - ① プリンタの接続と設定 122
- 5 テレビを接続する 124
- 6 外部ディスプレイを接続する 128
- 7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 129
- 8 その他の機器を接続する 131
 - ① マイクロホン 131
 - ② ヘッドホン 132
- 9 メモリを増設する 134

5章 バッテリー駆動

139

- 1 バッテリーについて 140
 - ① バッテリー充電量を確認する 141
 - ② バッテリーを充電する 143
 - ③ バッテリーパックを交換する 145
- 2 省電力の設定をする 147
 - ① 電源オプション 147
- 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 154
 - ① スタンバイ 155
 - ② 休止状態 155
 - ③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する 156

6章 アプリケーションについて	159
1 アプリケーションを使う前に	160
2 アプリケーションを追加（インストール）する	162
3 アプリケーションを削除（アンインストール）する	163
7章 システム環境の変更	165
1 システム環境の変更とは	166
2 BIOS セットアップを使う	167
① BIOS セットアップの操作	167
② パスワードの設定	169
付録	173
1 本製品の仕様	174
2 技術基準適合について	177
3 無線 LAN について	192
総合さくいん	197

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っていると便利な内容を示します。
 役立つ 操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

* 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

* 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

* 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム (OS) を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

サイバーサポート
CyberSupport for TOSHIBA を示します。

ドライブ マルチドライブを示します。

記載について

- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Bookshelf Basic は、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』第 6 版 © 研究社 1967, 1994, 1998、『新和英中辞典』第 4 版 © 研究社 1933, 1995, 1998、『新明解国語辞典』第 5 版 © 三省堂 1972, 1974, 1981, 1989, 1997
- ・ Intel、インテル、Centrino、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス、マイペンシルは、株式会社ジャストシステムの商標または登録商標です。
- ・ CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス /R.2、マイペンシル /R.2 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport、BeatJam、ホームページミックス /R.2、マイペンシル /R.2 にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ CDDB は Gracenote の登録商標です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。

- ・ LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネット、ConfigFree は (株) 東芝の商標または登録商標です。
- ・ 駅前探険倶楽部は株式会社駅前探険倶楽部の登録商標です。
- ・ ekitanExpress Online の商標は出願中です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag'n Drop はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ 駅すぱあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスW for TOSHIBAは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
©2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ MotionDV STUDIO は、松下電器産業株式会社の登録商標です。
- ・ InterVideo、WinDVD は InterVideo Incorporated の登録商標または商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・ かるがるネット、かるがるネットのロゴは株式会社アイコムジャパンの商標または登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジーについて

次の3つのテクノロジーを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

- ・ インテル Pentium M プロセッサ
- ・ インテル 855 チップセット ファミリ
- ・ インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ ACアダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5℃ から 35℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・ 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・ 無線 LAN の使用によるデータの盗聴、およびそれによる被害に関しては保証できません。
- ・ 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・ 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・ パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝 PC 集中修理センタに依頼してください。パスワードの解除を東芝 PC 集中修理センタに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ ご使用の際は必ず付属の取扱説明書、『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

 **参照** 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

やいたいことを探そう！



探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX
↳ アプリケーション名 ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



通信を楽しむ

- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」 ⇒ 「まずはこれから」
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ 「基本をマスター 2章」
- ・ ホームページを英語／日本語に翻訳したい
「The翻訳インターネット」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.110
- ・ ネットワークの診断や切り替えをしたい
「ConfigFree」 ⇒ P.106



メールを使う

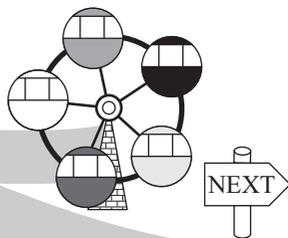
- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Outlook」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ メールをしたい
「Microsoft Outlook」 「Outlook Express」 ⇒ 「基本をマスター 3章」





音楽を楽しむ

- 音楽CDやファイルを再生、管理したい
「BeatJam」⇒P.56
- 音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.56
- オリジナル音楽CDを作りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒P.68



音声

- パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》



画像/映像を楽しむ

- デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」⇒P.79
- デジタルビデオカメラの映像を取り込んで編集したい
「MotionDV STUDIO」⇒P.82
- DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」⇒P.73



文書 / 表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Word」⇒《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい
「Microsoft Excel」⇒《サイバーサポート》



便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい
「Acrobat Reader」⇒《サイバーサポート》
- ・地図で場所を調べたい
「フロアトラスW for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「駅すばあと」 「ekitanExpress Online」⇒《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》
- ・国語/英和/和英辞典を使いたい
「Microsoft Bookshelf Basic」⇒《サイバーサポート》
- ・ホームページを作りたい
「ホームページミックス /R.2」⇒《サイバーサポート》
- ・日記をつけたい
「マイペンシル /R.2」⇒《サイバーサポート》



パソコンを守る

- ・ ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security」⇒『困ったときは 2章』
- ・ CD-R、CD-RWにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD+DVD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・ ワンタッチボタンの設定を変えたい
「イージーボタンユーティリティ」⇒P.24
- ・ アイコンやメニューを大きくしたい
「Liquid View」⇒《サイバーサポート》



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

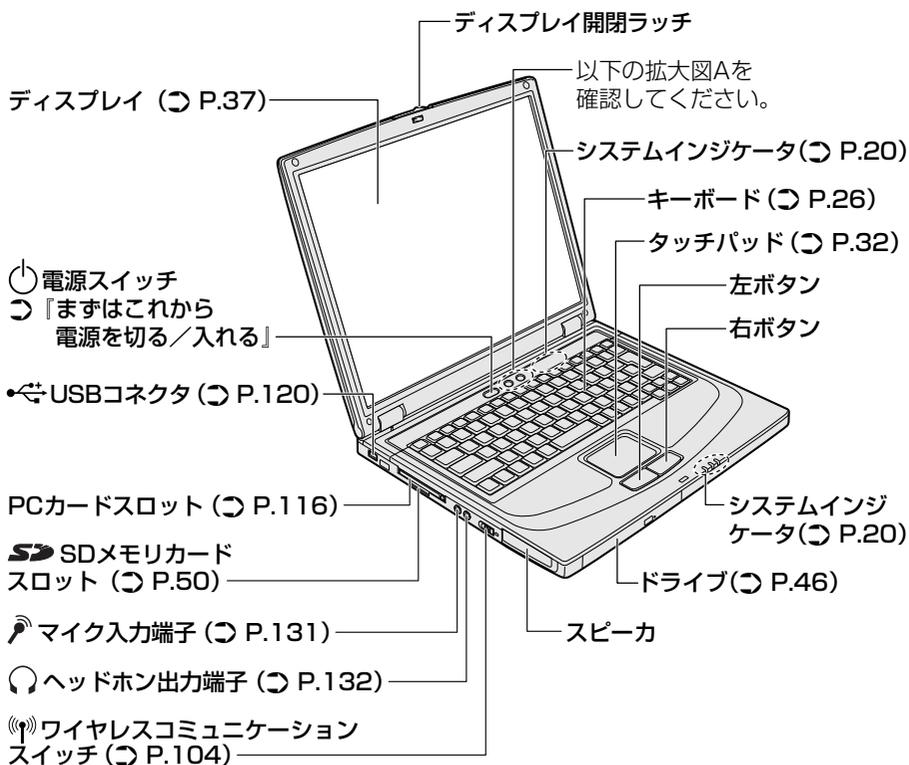
また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

1	各部の名前	16
2	インジケータとボタン	20
3	キーボード	26
4	タッチパッド	32
5	ディスプレイ	37
6	ハードディスクドライブ	43
7	サウンド機能	44
8	ドライブ	46
9	SDメモ리카ード	50
10	セキュリティロック	54

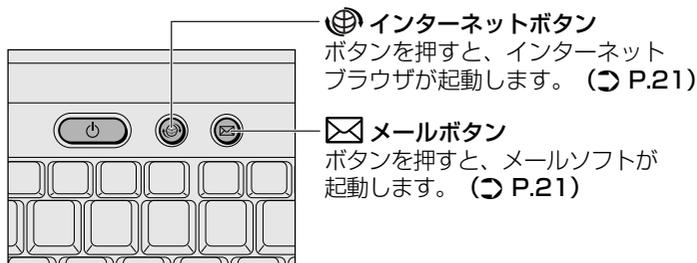
1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

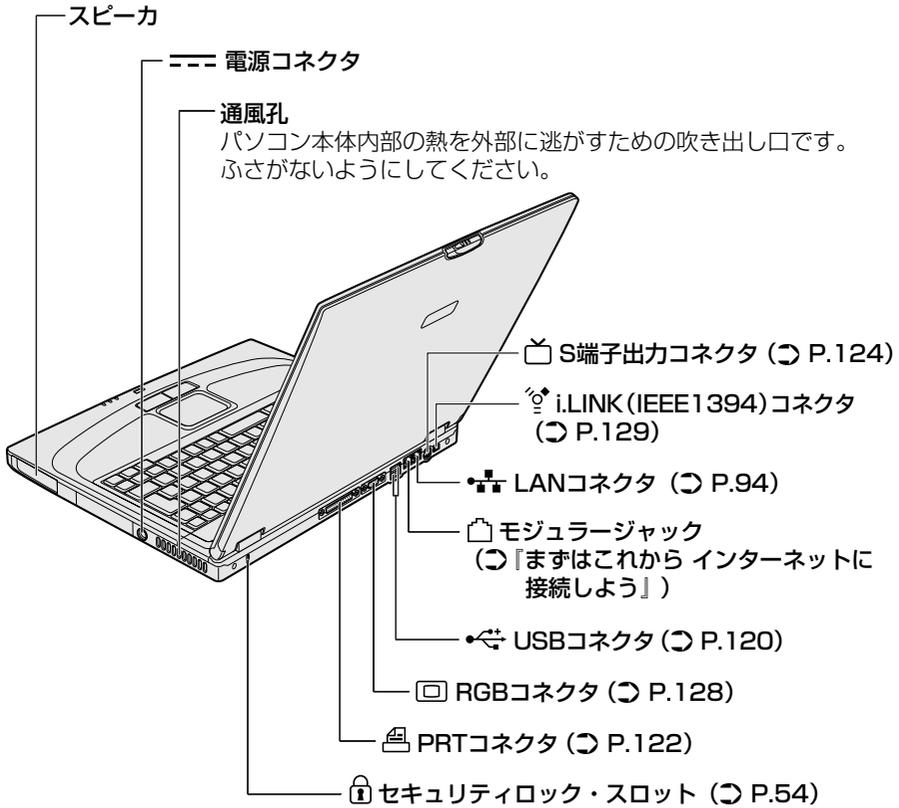
1 前面図



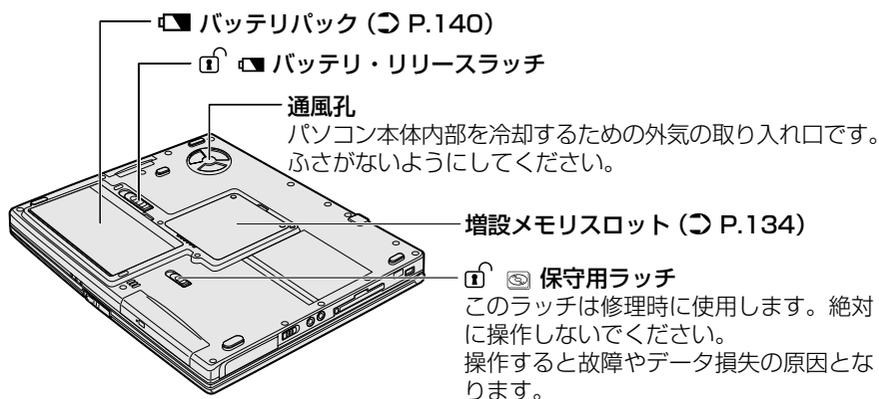
【拡大図A】



2 背面図



3 裏面図



【電源コードとACアダプタの仕様について】

電源コードの仕様

本製品に同梱されている電源コードは、日本の安全規格・法令に適合しています。その他の地域で使用する場合は、当該地域の安全規格・法令に適合した電源コードを現地で購入のうえ、お使いください。

使用できる電圧 (AC) は 100V です。

必ず AC100V のコンセントで使用してください。

AC アダプタの仕様

本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力：AC100V～240V、～1.8A、50/60Hz

出力：19V、3.16A

⚠ 警告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や (+) (-) の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず『まずはこれから』に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタの DC 出力プラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ~ 35℃、湿度 20 ~ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所 / 非常に高温または低温になる場所 / 急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため） / 強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く） / ホコリの多い場所 / 振動の激しい場所 / 薬品の充満している場所 / 薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

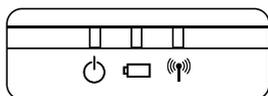
2 インジケータとボタン

システムインジケータと、ワンタッチボタンについて説明します。

1) システムインジケータ

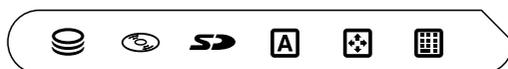
システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。

【本体前面】



	Power LED	電源の状態 参照▶『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリーの状態 参照▶ P.141
	ワイヤレス コミュニケーション LED	無線通信機能の状態 参照▶ P.104

【キーボード上部】



	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている 参照▶ P.43
	CD-ROM LED	ドライブにアクセスしている 参照▶ P.46
	SD Card LED	SD メモリカードスロットにアクセスしている 参照▶ P.50
	Caps Lock LED	文字入力の大文字ロック状態 参照▶ P.28
	Arrow Mode LED	文字入力のアロー状態 参照▶ P.28
	Numeric Mode LED	文字入力の数字ロック状態 参照▶ P.28

2) ワンタッチボタン

本製品には、2つのワンタッチボタンがあります。

ワンタッチボタンは、Windowsが起動しているときに使用することができます。パソコン本体に電源が入っていないときやスタンバイ/休止状態になっているときは、ワンタッチボタンは動作しません。

次の2つのボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「イージーボタンユーティリティ」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Outlook Express
必要に応じて添付のMicrosoft Outlookに設定を変更してください。

参照▶ 詳細について「本項 1 ボタンの設定を変更する」

1 ボタンの設定を変更する

インターネットボタンとメールボタンは、各ボタンを押して起動するアプリケーションを、自由に設定することができます。

ここでは、インターネットボタンに「ペイント」を設定する方法を例に説明します。

1 通知領域に [Easy Button] アイコン () が表示されていることを確認する

[Easy Button] アイコン () が表示されていない場合はイージーボタンユーティリティを起動してください。

参照▶ イージーボタンユーティリティの起動方法「本節 ③-1 起動方法」

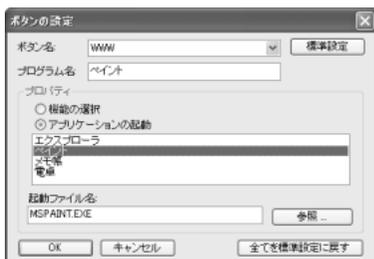
2 [Easy Button] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ボタンの設定] を選択する

[ボタンの設定] 画面が表示されます。

3 [ボタン名] で [WWW] を選択する

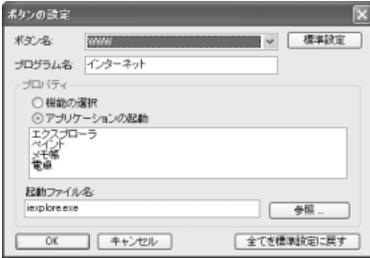
4 [アプリケーションの起動] をチェックし、リストボックスから [ペイント] をクリックする

[プログラム名] に「ペイント」と表示されます。



5 [OK] ボタンをクリックする

【 [ボタンの設定] 画面 】



[ボタン名]	設定するボタンを選択します。 [EMail] メールボタン [WWW] インターネットボタン
[プログラム名]	ボタンを押したときに画面に表示される文字を入力します。
[標準設定]	[ボタン名] で選択されているボタンの設定を購入時の状態に戻します。
[プロパティ] [機能の選択]	ボタンを押したときに実行する内容を設定します。 あらかじめ登録されている次の操作を選択できます。 [Task Switch] タスクバーに表示されているウィンドウを順番に切り替える [クローズ] 選択されているアプリケーションなどを閉じる
[アプリケーションの起動]	あらかじめ登録されているアプリケーションを起動できます。表示されているアプリケーションから選択します。
[起動ファイル名]* ¹	設定されているアプリケーション（ファイル名）が表示されます。
[参照]* ¹	クリックして表示される画面で、起動するアプリケーションを設定できます。
[全てを標準設定に戻す]	すべてのボタンの設定を購入時の状態に戻します。

* 1 [アプリケーションの起動] がチェックされている場合に表示されます。

3) イージーボタンユーティリティ

イージーボタンユーティリティを起動すると、ワンタッチボタンや、キーボードからの音量／ディスプレイの輝度調整時のレベル表示などの設定ができます。

1 起動方法

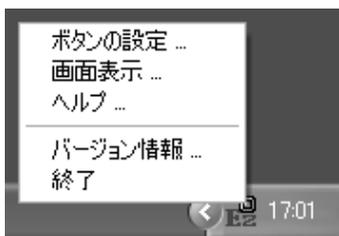
- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Easy Button] → [Easy Button] をクリックする

イージーボタンユーティリティが起動し、通知領域に [Easy Button] アイコン () が表示されます。



2 設定方法

- 1 通知領域の [Easy Button] () アイコンを右クリックする
- 2 表示されたメニューから目的の項目を選択する



【 ボタンの設定 】

[ボタンの設定] を選択して表示される画面では、ワンタッチボタンを押したときに起動するアプリケーションなどを設定できます。

 参照 → 詳細について「本節 ②-1 ボタンの設定を変更する」

【画面表示】

[画面表示] を選択して表示される画面では、ワンタッチボタンを押したときやキーボードから音量／ディスプレイの輝度調整の操作を行ったときに、画面に文字などを表示するかどうかを設定できます。また、表示する場合、その表示時間、文字のフォント、色などを設定できます。

 参照 キーボードからの音量／ディスプレイの輝度調整について
「本章 3-③ - (Fn)キーを使った特殊機能キー」

【バージョン情報】

イージーボタンユーティリティのバージョンが表示されます。

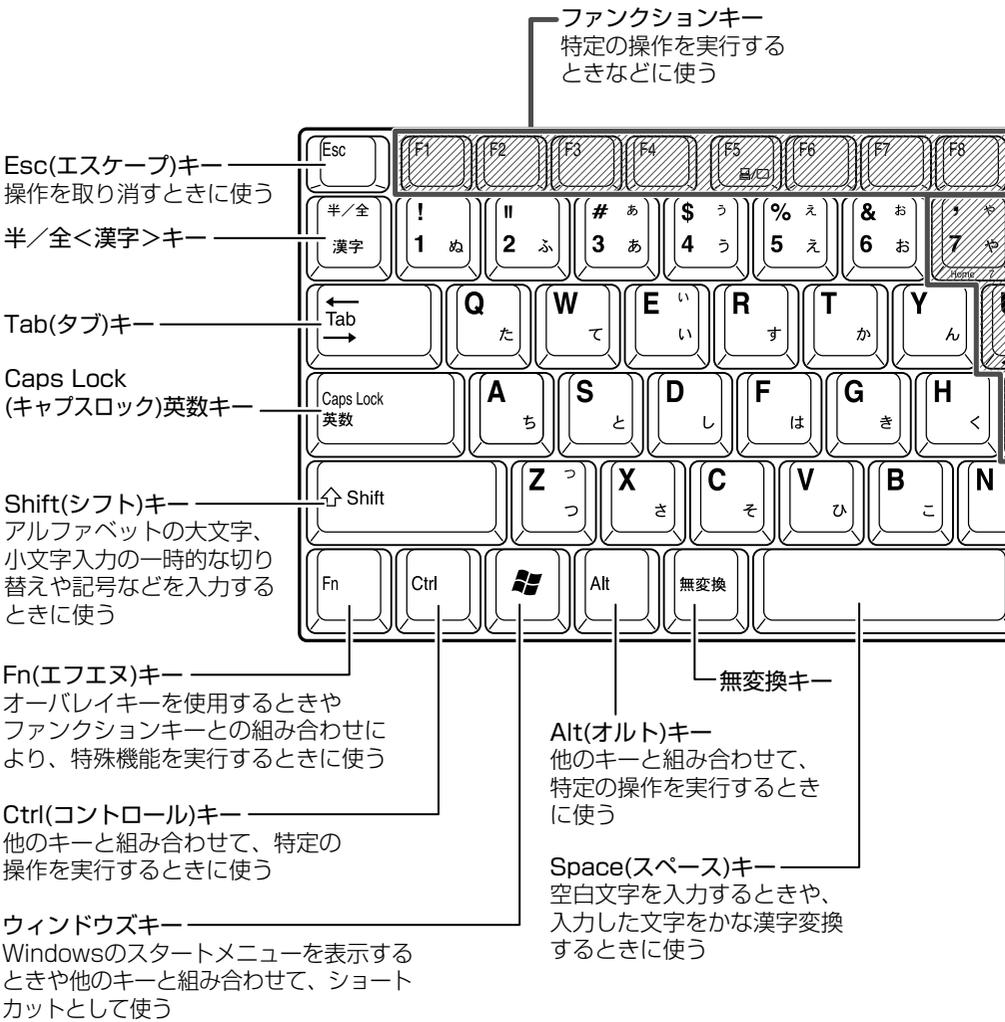
【終了】

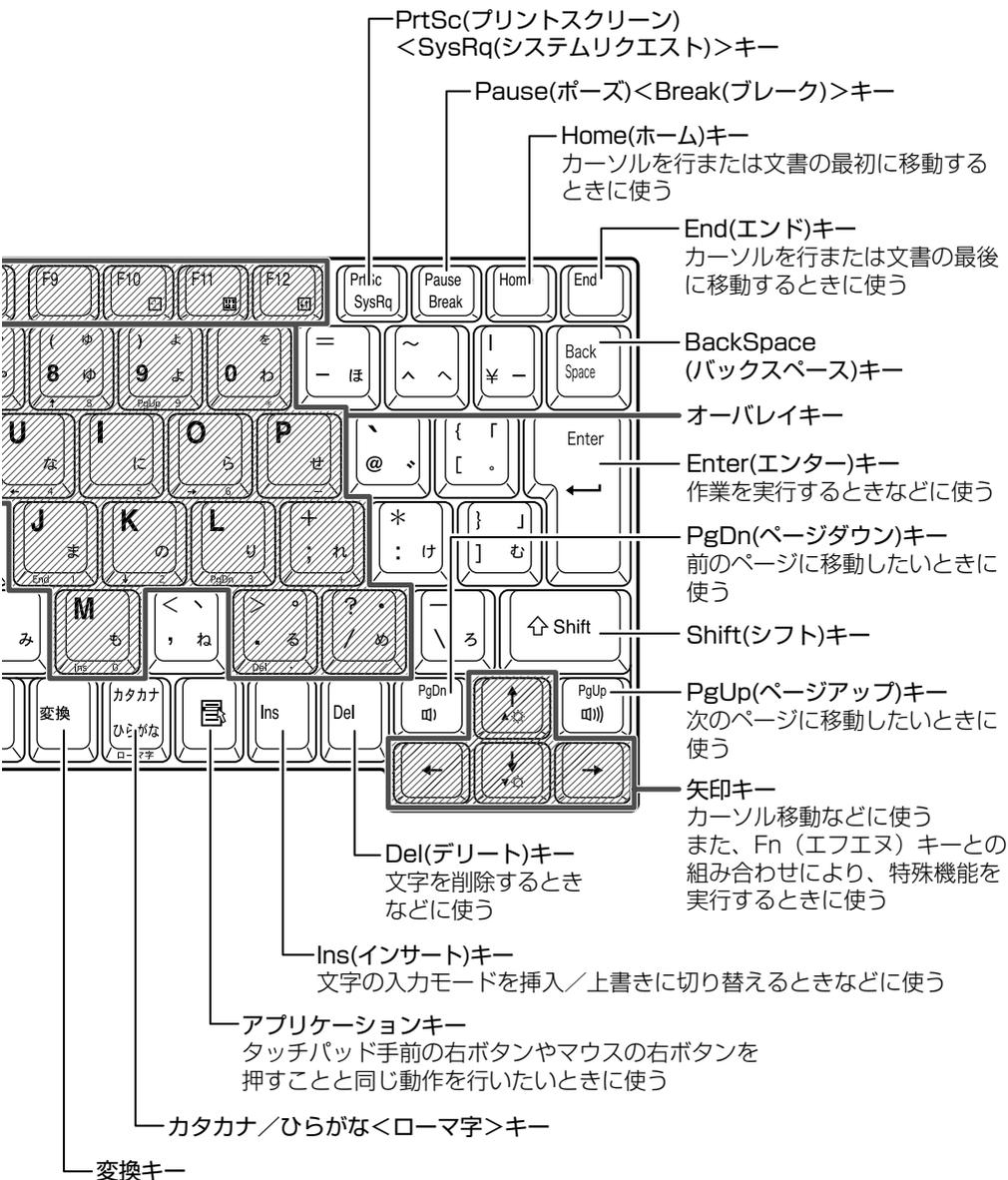
イージーボタンユーティリティを終了します。

3 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1) キーボード図





2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。

参照 → LED について「本章 2-① システムインジケータ」

【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力 できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバーレイキーで、キーの前面 左側に印刷されたカーソル制御 ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバーレイキーで、キーの前面 右側に印刷された数字などの 文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう 1 度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 詳細について  参照 「4章 5 テレビを接続する」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に青色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に青色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excelなど）によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで     キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。
(Fn)+(↑) 〈ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(↑)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。イーザーボタンユーティリティを起動している場合、輝度のレベルが表示されます。  参照 イーザーボタンユーティリティについて 「本章 2-③ イーザーボタンユーティリティ」
(Fn)+(↓) 〈ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(↓)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。イーザーボタンユーティリティを起動している場合、輝度のレベルが表示されます。  参照 イーザーボタンユーティリティについて 「本章 2-③ イーザーボタンユーティリティ」

キー	内容
(Fn)+(PgUp) 〈スピーカの音量を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(PgUp)キーを押すたびに音量が1段階ずつ上がります。イーザーボタンユーティリティを起動している場合、音量のレベルが表示されます。 参照 ▶ イーザーボタンユーティリティについて 「本章 2-③ イーザーボタンユーティリティ」
(Fn)+(PgDn) 〈スピーカの音量を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(PgDn)キーを押すたびに音量が1段階ずつ下がります。イーザーボタンユーティリティを起動している場合、音量のレベルが表示されます。 参照 ▶ イーザーボタンユーティリティについて 「本章 2-③ イーザーボタンユーティリティ」

【キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
 +(R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
 +(M)	すべての画面を最小化する
(Shift)+(Windows logo)+(M)	 +(M)で最小化したすべての画面を元に戻す
 +(F1)	『ヘルプとサポート』を起動する
 +(E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
 +(F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl)+(Windows logo)+(F)	他のコンピュータを検索する
 +(Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
 +(Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【特殊機能キー】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl)+(Alt)+(Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt)+(PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または東芝 PC 集中修理センタに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または東芝 PC 集中修理センタに点検を依頼してください。

4 タッチパッド

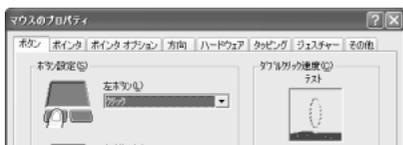
タッチパッドを使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、「マウスのプロパティ」で行います。

1 「マウスのプロパティ」の設定方法

- 1 通知領域の [Touch Pad] アイコン () をダブルクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



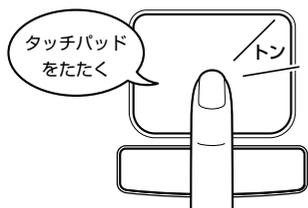
- 2 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする
各機能の設定については、以降の説明を参照してください。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2) タッピング機能

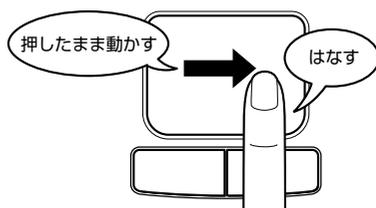
タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

【クリック/ダブルクリック】
タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】
タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[タッピング] タブでできます。[タッピング] タブで設定できる機能は、次のようになっています。



タッピング	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、タッピング機能が使用できます。続けてタッピングするときの速度は、[タッピング速度] のスライダーバーを動かして調節します。
ドラッグ	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) とドラッグロックを設定できます。[ドラッグロック] をチェックすると、タッピングでドラッグした場合、指を離してもドラッグ状態を保てます。[自動解除] を選択すると一定時間経ったらドラッグ状態を解除し、[タッピング又はクリックで解除] を選択するとタッピングまたはクリックでドラッグ状態を解除します。自動解除の時間は、スライダーバーを動かして調節できます。
キー入力時タップしない	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、キーボードから文字を入力している間はタッピング機能が効かなくなります。入力中に意図しない場所をクリックしてしまうのを防ぐことができます。

3 タッピング機能を便利に使う

[ジェスチャー] タブで設定します。

タッチパッドの右上、左上をタッピングしたときの動作や、スクロール機能を設定できます。



左コーナーの設定
右コーナーの設定

タッチパッドの左上、右上をタッピングしたときの動作を設定できます。

ブラウザ補助機能を使う

チェックする (☑) と、タッチパッドの上端に指を合わせて左右に動かしたときに、ブラウザの「進む」「戻る」の動作を行うことができます。

スクロール機能を使う

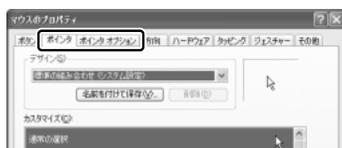
チェックする (☑) と、タッチパッドの右端、下端に指を合わせて上下または左右に動かしたときに、スクロール機能を使用できます。

役立つ 操作集

ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。



3 その他の設定

【その他】タブは、タッチパッドの操作に合わせて音を鳴らしたり、タッチパッドで手書き入力をするなど、いろいろな設定ができます。



【サウンドフィードバック】

【使用する】をチェックすると、タッチパッドの操作に合わせてサウンドを鳴らすことができます。

【設定】 ボタンをクリックすると、[サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ] 画面が表示されます。

【サウンド】 タブの [プログラムイベント] で「Alps Pointing Device Driver」の各場面のサウンド設定を行ってください。

【トレイアイコン】

【タスクバーにアイコンを表示する】をチェックすると、通知領域に [Touch Pad] アイコン () が表示されます。購入時にはチェックされています。

【IMEキャプチャー】

【使用する】をチェックすると、タッチパッドをIMEパッドの手書き入力エリアとして使用できます。

使用中は、ポインタが羽に変わります。使用中に右クリックすると入力エリアがクリアされ、左クリックすると使用が解除されます。

【イージーキャプチャーの設定】

イージーキャプチャー機能を使うと、ペイントを起動せずに簡単な絵を描いて、起動中のアプリケーションに貼り付けることができます。

イージーキャプチャー機能を使用する場合は、あらかじめ [ジェスチャー] タブの [左コーナーの設定] または [右コーナーの設定] で「イージーキャプチャー」を指定しておきます。

【 イージーランチャーの設定 】

イージーランチャー機能とは、ランチャー画面のボタンをクリックするだけで、「最小化」「閉じる」などの操作を実行したり、登録したアプリケーションやファイルを起動できる機能です。

イージーランチャー機能を使用する場合は、あらかじめ [ジェスチャー] タブの [左コーナーの設定] または [右コーナーの設定] で「イージーランチャー」を指定しておきます。

ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

5 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024×768 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

▶ 参照 外部ディスプレイの接続について
「4 章 6 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

内部液晶ディスプレイでは設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

1600 × 1200 ドット *1	1,677 万色
1280 × 1024 ドット *1	1,677 万色
1152 × 864 ドット *1	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

*1 仮想スクリーン表示になります。

メモ

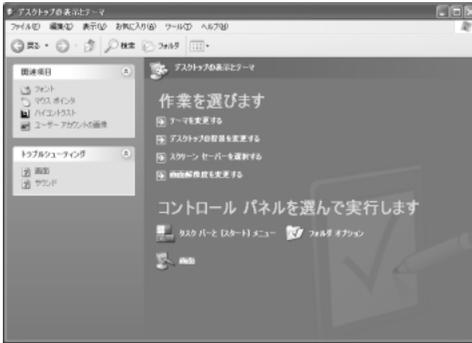
1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

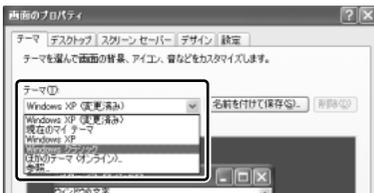
[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [テーマ] タブの [テーマ] で  ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

- 3 [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windows に用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

1 【デスクトップの表示とテーマ】画面で【デスクトップの背景を変更する】をクリックする

【画面のプロパティ】画面が表示されます。

2 【デスクトップ】タブの【背景】で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は【草原】を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル
bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。
- 画像の位置を指定する
画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。
【表示位置】で【中央に表示】、【並べて表示】、【拡大して表示】から選択します。

3 【OK】ボタンをクリックする

スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

1 【デスクトップの表示とテーマ】画面で【スクリーンセーバーを選択する】をクリックする

【画面のプロパティ】画面が表示されます。

2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



3 [OK] ボタンをクリックする

ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [デザイン] タブの [配色] で、  ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。
画面は、[オリーブ グリーン] を選択する場合の表示例です。

3 [OK] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または東芝 PC 集中修理センタに相談してください。有償にて交換いたします。

6 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PC カードタイプ（TYPE I または TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的に CD などハードディスク以外の記憶メディアに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、CD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気プレスレットなど強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1) ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



PC カードタイプや i.LINK（IEEE1394）対応機器、USB 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk  LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

7 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。キーボード、または Windows の「ボリュームコントロール」で調整できます。

1 キーボードから調整する

「イージーボタンユーティリティ」を起動している場合、キーボードから音量調整を行う際の音量レベルを表示することができます。

▶ 参照 イージーボタンユーティリティについて
「本章 2-③ イージーボタンユーティリティ」

【音量を上げる】

- 1 **(Fn)** キーを押したまま、**(PgUp)** キーを押す
(PgUp) キーを押すたびに、音量が 1 段階ずつ上がります。

【音量を下げる】

- 1 **(Fn)** キーを押したまま、**(PgDn)** キーを押す
(PgDn) キーを押すたびに、音量が 1 段階ずつ下がります。

2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[Volume Control] 画面が表示されます。

- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「ボリュームコントロール」の各項目では次の音量が調整できます。

Volume Control	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (Windows Media Player の場合)、DVD-ROM、DVD-Video など
CD Player	音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

接続するマイクによって録音レベルが異なります。

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[Volume Control] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[Microphone] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [Recording Control] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[Microphone] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に2つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声が「ボリュームコントロール」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

8 ドライブ

本製品には、マルチドライブ 1 台が内蔵されています。マルチドライブは CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能を持ちます。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。

CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、CD-ROM LED が点灯します。



1) 使用できるメディアと対応するアプリケーション

【使用できるメディア】

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み出し	○	○	○*1	○*1	○*1	×	×
書き込み回数	1 回	繰り返し書換可能*2	×	×	×	×	×

* 1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

* 2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

CD-R、CD-RW には本製品に付属の「Drag'n Drop CD+DVD」で書き込みができません。

2) 使用できる CD

読み出しできる CD は、次の種類です。

- 音楽用 CD
8cm または 12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのもので使用できます。
- CD エクストラ
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は、次の種類です。

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
CD-R の書き込み速度は最大 24 倍速です。最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。
- CD-RW
CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。
マルチスピード CD-RW メディア : 最大 4 倍速
High-Speed CD-RW メディア : 最大 10 倍速
なお、Ultra Speed CD-RW メディアは使用できません。使用した場合、データの保証はできません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

CD-RW (マルチスピード、High-Speed)

: 三菱化学 (株)、(株) リコー

CD-R : 太陽誘電 (株)、三井化学 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、日立マクセル (株)

これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照▶ エラーチェック《サイバースポート》

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3) 使用できる DVD

読み出しできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM ● DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R ● DVD-RW ● DVD-RAM

【 DVD-RAM の種類 】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品で使用できる DVD-RAM は次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで読み出しする面を変更するときは、1 度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAM の種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ (取り出し不可)	×
カートリッジタイプ (取り出し可能)*2	○

* 1 一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。

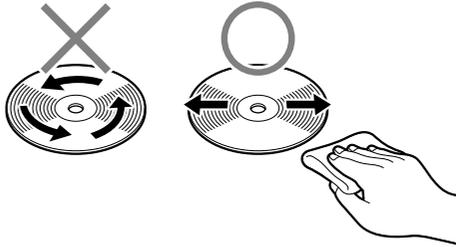
* 2 2.6GB、5.2GB のディスクは使用できません。

CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



9 SD メモリカード

SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで、パソコンと SD メモリカード間でデータの読み出しや書き込みを行うことができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- 著作権保護技術を使用して SD メモリカードにデータを書き込むアプリケーションはサポートしていません。また、データが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生などを行うことはできません。
- 本製品では SDIO 規格をサポートしていないため、SD メモリカード以外の SD カードを SD カードスロットに挿入しないでください。
- 本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。
- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがってすべての SD メモリカードの動作は保証できません。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

1 SDメモリカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



2) SD メモリカードのセットと取り出し

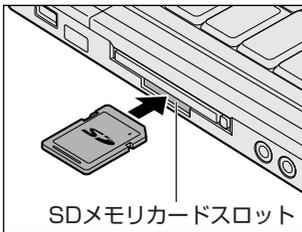
SD メモリカードをSD メモリカードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

お願い

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやSD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

パソコン本体がSD メモリカードを認識しない場合には、いったんSD メモリカードを取り出し、もう1度セットしてください。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
- ② [リムーバブルディスク (D:)] (標準値) を右クリックする
- ③ [取り出し] をクリックする
- ④ SD Card LED が消灯していることを確認する

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモ리카ードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

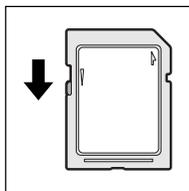
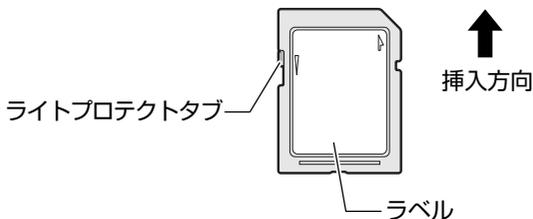
2 [リムーバブルディスク (D:)] (標準値) をダブルクリックする

[リムーバブルディスク (D:)] (標準値) 画面が開き、セットしたSDメモ리카ードの内容が表示されます。

3 SDメモ리카ードを使う前に

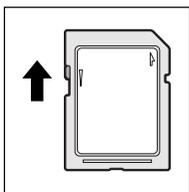
1 ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモリカードを使えるようにすることです。

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、SDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

SDメモリカードの取り扱い

SDメモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SDメモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
SDメモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SDメモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモリカードに付属のケースに入れてください。
- SDメモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

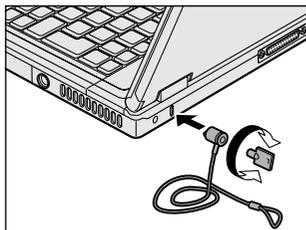
10 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。DVD-Videoの映像を観る。写真や映像を編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

1	音楽CDを聴く	56
2	音楽ファイルを聴く	60
3	オリジナル音楽CDを作る	68
4	DVD-Videoを観る	73
5	デジタルカメラの写真を編集／整理する	79
6	映像を編集する	82

1 音楽 CD を聴く

本製品では音楽 CD を聴くことができます。音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- BeatJam ビートジャム
- Windows Media Player ウィンドウズ メディア プレーヤ

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 音楽 CD を再生する

1 起動方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (E:)] 画面が表示されます。

参照▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

[Audio CD (E:)] 画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (E:) ドライブを右クリックし、表示されたメニューから [自動再生] をクリックしてください。

2 使用するアプリケーションを選択し、[OK] ボタンをクリックする

「BeatJam」を選択する場合は、[オーディオ CD の再生 BeatJam 使用]、
「Windows Media Player」を選択する場合は、[オーディオ CD を再生します Windows Media Player 使用] を選択します。

「BeatJam」を起動したいのに [Audio CD (E:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されない場合は、[閉じる] ボタン () をクリックして画面を終了し、[スタート] → [すべてのプログラム] → [JUSTSYSTEM アプリケーション] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックして起動してください。

次回から [Audio CD (E:)] 画面に [オーディオ CD の再生 BeatJam 使用] が表示されるように、「BeatJam」で設定できます。

参照▶ 設定方法『困ったときは 3 章 Q BeatJam が起動できない』

BaetJam を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[使用許諾契約の確認] 画面が表示されます。契約内容を読んで、[同意する] ボタンをクリックしてください。[同意する] ボタンをクリックしないと、「BeatJam」を使用できません。

Windows Media Player を初めて起動したとき

初めて起動したときは、[Windows Media Player 9 シリーズへようこそ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってプライバシーオプションとインストールオプションを設定してください。

インストールオプションの設定では、[ファイルの種類] タブで [DVD ビデオ] のチェックをはずしてください。



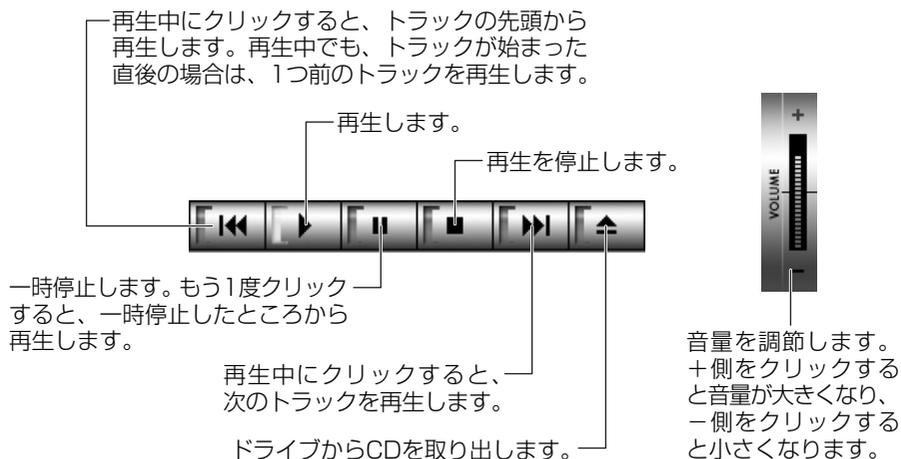
DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」の使用を推奨します。

「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。

2 操作画面

アプリケーションごとの各操作ボタンの役割は次のとおりです。

BeatJam を起動した場合



【ヘルプの起動方法】

- 1 「BeatJam」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [BeatJamの使い方] をクリックする

参照 → 「BeatJam」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

Windows Media Player を起動した場合



再生／一時停止

再生または一時停止します。

音量

音量を調整します。



停止

再生を停止します。

ミュート

音を消します。

前へ

再生するトラックを1つ戻します。

次へ

再生するトラックを1つ進めます。

ヘルプの起動方法

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから【ヘルプ】→【トピックの検索】をクリックする



「Windows Media Player」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav) ●MIDI形式 (.mid) ●MP3形式 (.mp3) など

メモ

「BeatJam」はMP3ファイルの再生は可能ですが、MP3形式のデータを作成することはできません。

1 BeatJamでファイルを再生する

1 音楽ファイルを直接再生する

次のようにファイルを再生します。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [JUSTSYSTEM アプリケーション] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックする
- 2 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
[ライブラリ] 画面が表示されます。



- 3 画面左にある一覧で [すべての曲] をクリックし①、[マイコンピュータ] などで再生したい音楽ファイルを「BeatJam」のメイン画面にドラッグアンドドロップする②



音楽ファイルはアルバム名やアーティスト名によって、自動的にカテゴリに分類されて追加されます。

プレイリストが作成されている場合、プレイリストにドラッグアンドドロップするとそのプレイリストにも追加されます。

参照 → プレイリストについて「本項 2 プレイリストを作成する」

- 4 画面左でカテゴリやグループを選択し①、表示された一覧から再生したいファイルを選択する②



このとき画面左の [すべての曲] をクリックすると、カテゴリやグループに分けず、すべてのファイルが表示されます。

- 5 [再生] ボタン (▶) をクリックする

選択したトラックが再生されます。

選択したトラックのあとは、一覧に表示されている順に再生されます。

2 プレイリストを作成する

音楽ファイルを好きな順序に並べてプレイリストを作成すると、複数の音楽ファイルを聴きたい順番で再生することができます。

1 ライブラリにファイルを追加する

ライブラリにファイルを追加して、プレイリスト作成の準備をします。

- 音楽CDのトラックをコピーする場合

① [CD] ボタン () をクリックする

[CD] 画面が表示されます。

② 音楽CDをドライブにセットする

自動的に再生が始まったときは、[停止] ボタン () をクリックして停止してください。

[Audio CD]画面が表示されたときは、[キャンセル] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

③ 一覧で、録音したいトラックの左側にあるボックスをチェック () する
一覧の左下にある をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されます。 をクリックすると、一覧表示されているすべてのトラックが録音されません。

④ [曲のビットレート] () で、どのビットレートで録音するかを選択する

ビットレート数が多いほど、良い音質で録音されます。

⑤ [録音] ボタン () をクリックする

[CDの録音] 画面が表示され、録音が始まります。

⑥ 録音が終わったら、[閉じる] ボタンをクリックする

役立つ 操作集

曲情報を取り込む

音楽CDの情報を Gracenote CDDb から取り込むことができます。Gracenote CDDb については、BeatJam のヘルプを確認してください。Gracenote CDDb は、ユーザ登録しないと使用できません。Gracenote CDDb で曲の情報を取り込めないときは、[Artist] にアーティスト名や、[Genre] にジャンル名を入力します。ジャンル名はメニューから選択することもできます。

- ファイルを追加する場合

「本項 1 音楽ファイルを直接再生する」の手順 2、3 を参照して、音楽ファイルをライブラリに追加してください。

- 2 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
- 3 [編集メニュー] ボタン () をクリックして、表示されるメニューから [プレイリストの新規作成] をクリックする
[プレイリストの一覧] に「New Playlist」という新しいプレイリストが作られます。



- 4 新しいプレイリストの名前を入力し、(Enter)キーを押す
プレイリスト名が確定されます。
- 5 追加したいファイルが含まれているグループを、画面左の一覧にある [すべての曲] ~ [お好み検索] から選択する
- 6 一覧から、プレイリストへ追加するファイルを選択する



(Ctrl)キーを押したままファイルをクリックすると、順番が離れている複数の曲を選べます。(Shift)キーを押したままファイルをクリックすると、順番が続いている複数の曲を選べます。

- 7 選択したファイルをドラッグし、画面左の一覧にある、追加したいプレイリストの上でドロップする
プレイリストに曲が追加されます。

3 プレイリストから再生する

- 1 [ライブラリ] ボタン () をクリックする
- 2 画面左の一覧にある [プレイリスト] の中から、聴きたいプレイリストをクリックする
- 3 [再生] ボタン () をクリックする
一覧に表示されている順に再生されます。

2 Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 [スタート] → [Windows Media Player] をクリックする
「Windows Media Player」が起動します。
- 2 メニューバーから [ファイル] → [開く] をクリックする
- 3 聴きたい曲のファイルを選択し①、[開く] ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

参照 ▶ 関連情報は「本章 1-①-2-Windows Media Player を起動した場合」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽CDのトラックをコピーする場合
 - ① 音楽CDをセットする
 - ② [CDから録音] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽の録音] ボタンをクリックする
 - ⑤ [録音オプション (1 / 2)] 画面でオプションを選択する
 - ⑥ [CDから録音される音楽が、...] の項目を読み、チェックする
 - ⑦ [次へ] ボタンをクリックする
 - ⑧ [録音オプション (2 / 2)] 画面でオプションを選択する
 - ⑨ [完了] ボタンをクリックする
- ファイルを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルまたは再生リストを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ① メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URLを追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面でURLまたはパスを指定する

2 [メディアライブラリ] ボタンをクリックする



メディアライブラリを初めて使うときに限り、メッセージが表示されます。
[いいえ] ボタンをクリックしてください。

3 [すべての音楽] をクリックする

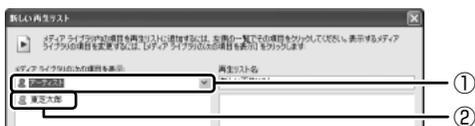


メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [再生リスト] ボタンをクリックし①、表示されたメニューから [新しい再生リスト] をクリックする②

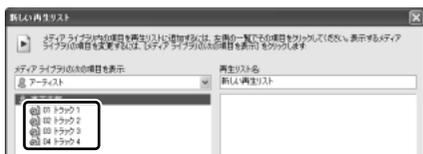


5 [メディア ライブラリの次の項目を表示] で再生リストに追加したいファイルのカテゴリを選択し①、表示されたカテゴリから目的の項目を選択する②



ファイルの一覧が表示されます。

6 再生リストに追加するファイルをクリックする



クリックしたファイルが、[再生リスト名] の下に表示されます。

7 [再生リスト名] に再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは例として再生リスト名を「新規リスト」とします。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする

再生が開始されます。

3 オリジナル音楽CDを作る

ドラッグ&ドロップ シーディープラスディスクライター
「Drag'n Drop CD + DVD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽CDを作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

1 Drag'n Drop CD + DVD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD + DVD」を使用してください。

本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外の CD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows 標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

参照 → CD-RW、CD-R について 「1 章 8-② 使用できる CD」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 → 省電力機能について 「5 章 2 省電力の設定をする」

「5 章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・スクリーンセーバ
 - ・ウイルスチェックソフト
 - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

- SD メモリカード、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「Drag'n Drop CD + DVD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2 Drag'n Drop CD + DVD を使う

「Drag'n Drop CD + DVD」は、Windows を起動するとデスクトップ上にアイコンが表示されます。

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CD + DVDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



[Music BOX]

音楽CDを作成するときに使用します。
音楽ファイルをこのボックスにドラッグアンドドロップすると [Audio CD Layout Window] が開き、そこで好きな曲を選択すると自分だけの音楽CDを作成できます。



[DISC Backup BOX]

著作権上コピーが認められているCDのバックアップを作成するときに使用します。



[Data BOX]

フォルダやファイルをドラッグアンドドロップしてデータCDを作成するときに使用します。

▶ 参照 → 詳細について『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』

CD に保存されている WMA 方式または WAVE 方式の音楽ファイルを使用して音楽 CD を作成する場合は、CD から直接 [Music BOX] にドラッグできません。1 度ハードディスクに保存してから音楽 CD を作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽 CD をドライブにセットする

[Audio CD (E:)] 画面が表示された場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

3 [Audio CD (E:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽 CD トラック情報] には曲情報が表示されています。

4 [ブランク CD サイズ] を指定する

5 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



6 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。

[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



曲順を入れ替えたい場合は、トラックを選択して移動したい位置へドラッグアンドドロップします。

不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽 CD から取り込みたい場合は、ここで音楽 CD を入れ替え、手順 5、6 を繰り返します。

7 音楽 CD を取り出し、未使用の CD-R をセットする

8 [書き込み] ボタン () をクリックする

CD への書き込みが開始されます。書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD + DVD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD + DVD] → [Drag'n Drop CD + DVD Help] をクリックする
「Drag'n Drop CD + DVD」のヘルプが表示されます。



「Drag'n Drop CD + DVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 Drag'n Drop CD + DVD を終了する

「Drag'n Drop CD + DVD」を終了するときは、次の手順で行います。

- 1 通知領域の [Drag'n Drop CD + DVD] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする
デスクトップに表示されていたアイコンが消えます。

4 DVD-Video を観る

本製品は、ドライブに DVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、インタービデオ ウィンディーファイダー「InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- 外部ディスプレイまたはテレビに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイまたはテレビの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示されません。

参照▶ 表示装置の切り替え「4章 5-2 テレビに表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1) InterVideo WinDVD を起動する

1 起動方法

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 ▶ DVDのセットについて『基本をマスター 1章 1-3 CD / DVD』
アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] でドライブのアイコンをダブルクリックしてください。「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 [DVDムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

メモ

[スタート] メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [InterVideo WinDVD] をクリックしてください。

2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ
ビデオを表示します。

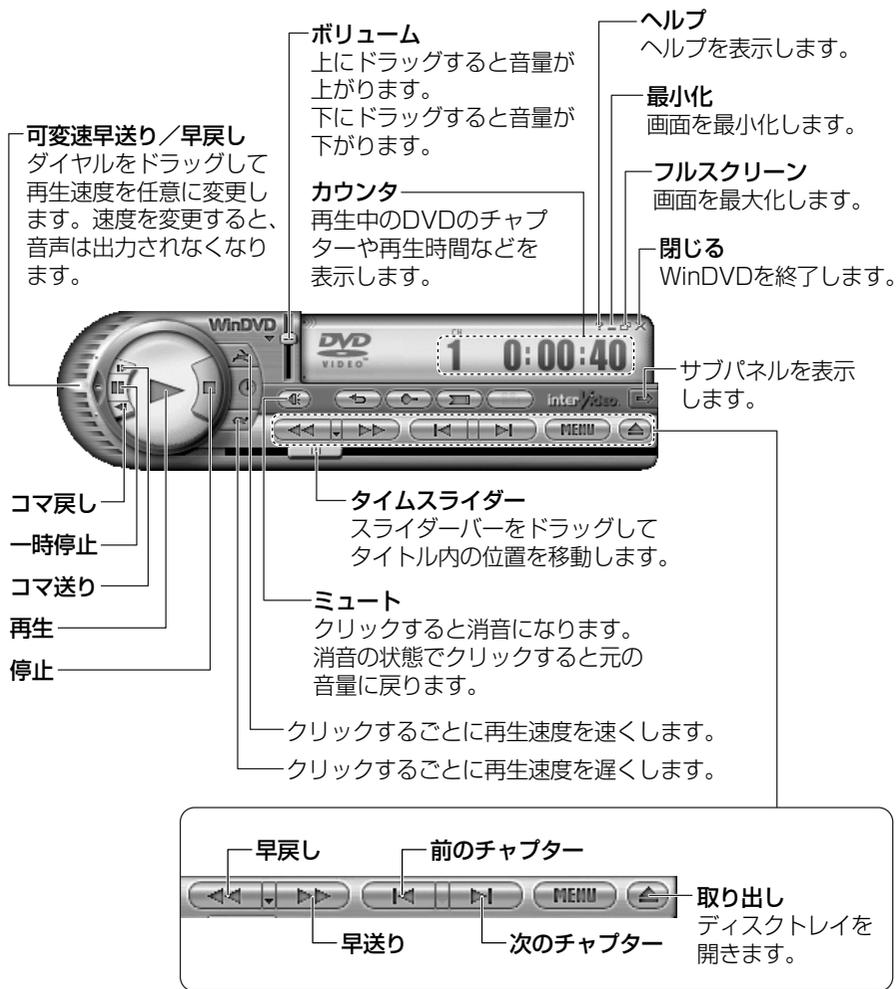


WinDVDコントロールパネル

DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照してください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適応されます。

- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Videoの再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

 参照 ▶ テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 5 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

1 [ヘルプ] ボタン () をクリックする

 参照 ▶ 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

5 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「^{ウォーカー}「^{ユーリード}デジカメ Walker (^{アイフォト}Ulead iPhoto ^{エクスプレス}Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする

モードを選択します。管理、編集、テンプレートから選択できます。

ショートカットバー
よく使う操作をボタンから行うことができます。

コマンドパネル
モードによってコマンドが変わります。作業領域で行う作業を選択します。

オプションパネル
コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

作業領域
イメージやプロジェクトを見たり編集したりする場所です。

サムネイルストリップ
開いているイメージやプロジェクトのサムネイル（一覧表示画像）が表示されます。

The screenshot shows the Ulead iPhoto Express application window. The title bar reads "Ulead Photo Express - [C:\Documents and Settings\なかとら\My Documents\写真]". The menu bar includes "ファイル(F)", "編集(E)", "表示(O)", and "ヘルプ(H)". The main interface features a "処理" (Process) button, a "フォト取り出し" (Import) button, and a menu for "一括修正" (Batch Adjust). Below these are navigation icons and a grid of photo thumbnails labeled "000.jpg", "001.jpg", "002.jpg", and "004.jpg". On the left, there is a sidebar with a tree view showing system folders like "デスクトップ" (Desktop) and "マイコンピュータ" (My Computer). At the bottom, there is a status bar.

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

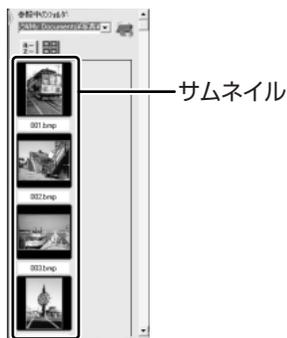
- 1 **【編集】モード** () でコマンドパネルから **【フォト取り出し】** → **【マイコンピュータ】** をクリックする

オプションパネルに **【参照中のフォルダ】** が表示されます。

- 2  をクリックし、表示されたメニューから **編集する写真のあるフォルダ** をクリックする

オプションパネルにサムネイルが表示されます。

- 3 **編集する画像のサムネイル** をクリックし、**【開く】** ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

- 4 コマンドパネルから **【編集】** のメニューをクリックし、**画像を加工する**

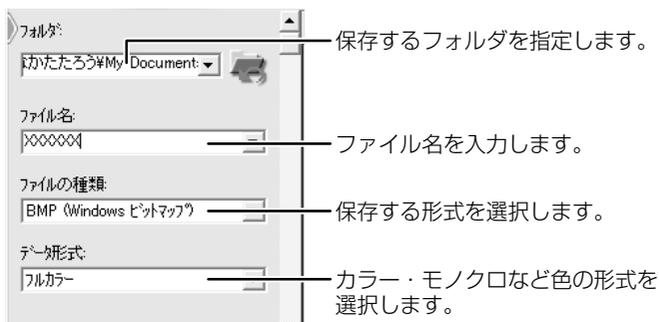
次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする

オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



2 [保存] ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [Ulead iPhoto Express のヘルプ] をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Screenbook] をクリックする

参照 → 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

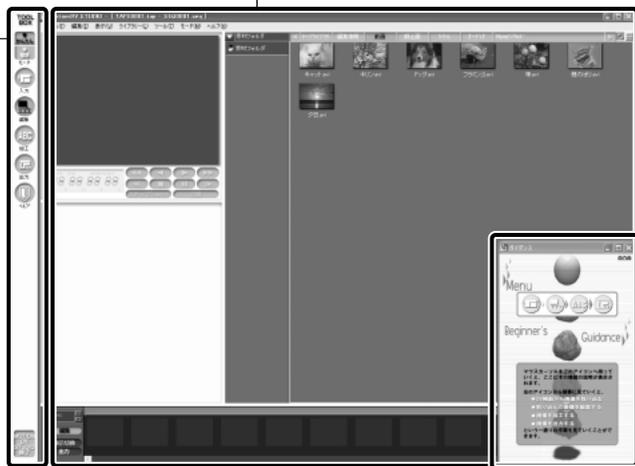
【[MotionDV STUDIO] 画面】

TOOL BOX

目的の操作・機能を選びます。

ワークエリア

映像データの加工や編集などの操作を行うエリアです。[TOOL BOX] で選んだ機能によって画面が切り替わります。



ビギナーズガイダンス

[TOOL BOX] で選んだ機能に関する操作説明が表示されます。

5 [TOOL BOX] の [入力] ボタン () をクリックする

[ワークエリア] が [コントロール画面] と [ライブラリ] に分かれます。



6 [再生] ボタン (▶) をクリックする

接続したデジタルビデオカメラの映像が再生され、[コントロール画面] に映像を表示します。

7 取り込みたいシーンで [動画取込み] ボタン (📹) をクリックする

取り込み中は次の画面が表示されます。



8 取り込みを終了したいシーンで [終了] ボタンをクリックする

取り込んだ映像 (本書では「ビデオクリップ」と呼びます) が保存され、[ライブラリ] の [動画] タブにビデオクリップの最初のシーンがアイコン表示されます。



取り込みたいシーンで手順7と8を繰り返します。取り込んだシーンごとにビデオクリップが作成されます。

取り込みが終了したら [停止] ボタン (⏸) をクリックして映像の再生を停止します。

2) MotionDV STUDIO で映像データを編集する

「MotionDV STUDIO」を使って、デジタルビデオカメラから取り込んだ映像データにタイトルを付けたり、複数の映像データをつなぎ合わせるなど編集することができます。ここではタイトルをつけ、他の映像データとつなぎ合わせて1つの映像データにしてみましょう。

お願い 映像データの編集について

- 「InterVideo WinDVD」など映像を表示するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示できない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。本体に外部ディスプレイまたはテレビを接続している場合、外部ディスプレイまたはテレビには表示されません。
- 著作権保護された映像が保存されている DVD-RW、DVD-R の映像の編集は「MotionDV STUDIO」では行えません。
- 「MotionDV STUDIO」動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないでください。

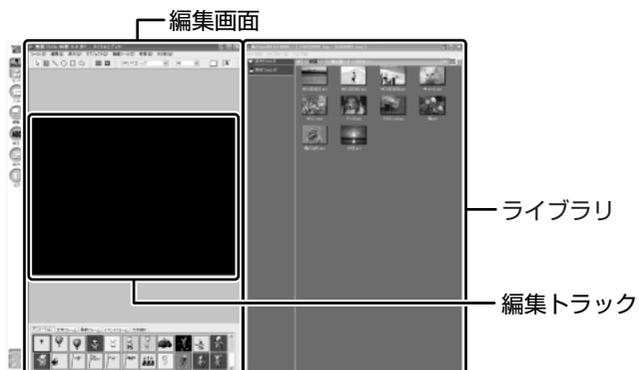
メモ

デジタルビデオカメラから映像データを取り込んだ後、「MotionDV STUDIO」を終了させた場合は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO for TOSHIBA] → [MotionDV STUDIO] をクリックして、もう1度「MotionDV STUDIO」を起動してください。

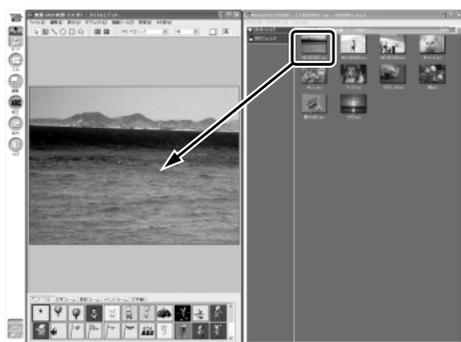
1 タイトルを入れる

取り込んだ映像データにタイトルなどの文字を追加する場合は、ビデオクリップを選択し、文字を入力して別のビデオクリップとして保存します。追加した文字は、そのビデオクリップの初めから終わりまで表示されます。

- 1 [TOOL BOX] の [加工] ボタン (ABC) をクリックする
[ワークエリア] が [編集画面] と [ライブラリ] に分かれます。



- 2 [ライブラリ] の [動画] タブから編集したいビデオクリップを [編集トラック] にドラッグアンドドロップする



- 3 [編集画面] のツールバーの [文字] アイコンをクリックする

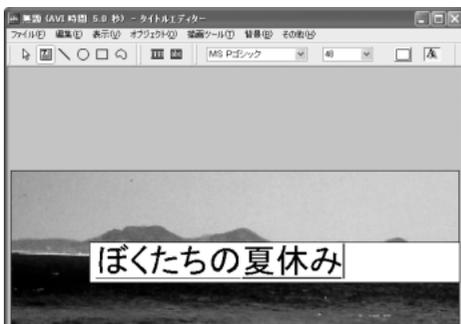


4 [編集トラック] でクリックする



画面上にカーソルが表示され、文字が入力できます。

5 文字を入力する



6 [編集画面] のツールバーの [選択] アイコンをクリックする



入力した文字が選択されます。

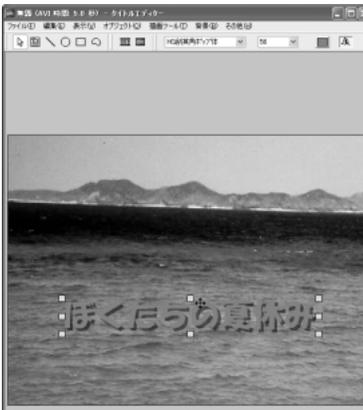


7 [編集画面] のツールバーの [文字フォント] [文字サイズ] [文字色] でフォント、サイズ、色を選択する

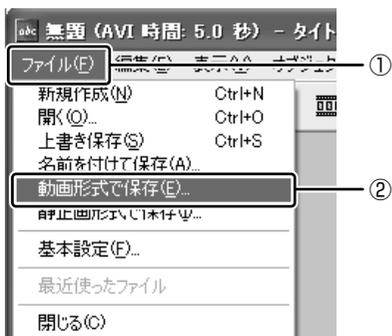


8 ポインタが の状態でドラッグアンドドロップする

ドロップした位置に文字が配置されます。



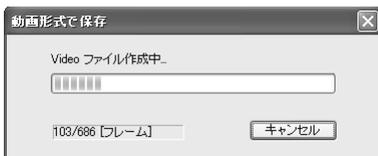
9 【編集画面】のメニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【動画形式で保存】をクリックする②



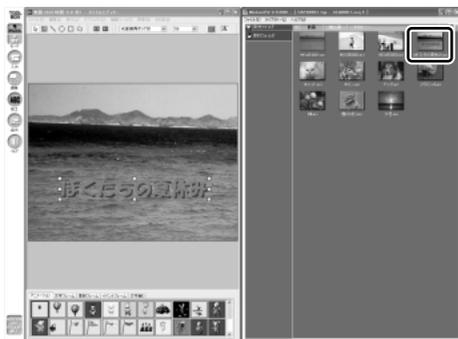
ビデオクリップとして使用するの
で、【動画形式で保存】を選択します。

10 ファイル名を入力し、【保存】ボタンをクリックする

ファイル作成中の画面が表示されます。



ファイルの作成が終わると、作成したビデオクリップが【ライブラリ】の【動画】タブに新しいビデオクリップとして表示されます。



2 複数のビデオクリップをつなぎ合わせる

いくつかのビデオクリップをつなぎ合わせて1つの映像データに編集します。

1 [TOOL BOX] の [編集] ボタン () をクリックする

「無題への変更を保存しますか?」という画面が表示された場合は [いいえ] ボタンをクリックしてください。

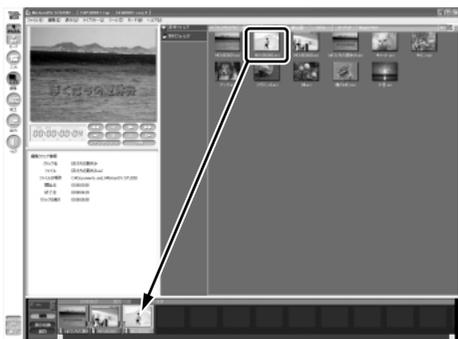
ワークエリアが [コントロール画面]、[ライブラリ]、[編集トラック画面]に分かれます。



2 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [新規作成] をクリックする②



3 [ライブラリ] の [動画] タブからつなぎ合わせたいビデオクリップのアイコンを [編集トラック画面] にドラッグアンドドロップする



[編集トラック画面] にドロップされたビデオクリップは1つの映像データになります。

[再生] ボタン (▶) をクリックすると、編集した映像データを [コントロール画面] に再生します。[クリップを戻す] ボタン (◀◀) や [クリップを送る] ボタン (▶▶) で再生を開始するビデオクリップを変更できます。

編集した映像データを保存する

編集した映像データを保存したり、途中でやめるときは、次の手順で保存します。

1 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [編集情報] → [編集情報を名前を付けて保存] をクリックする②



2 ファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックする

保存先は「MotionDV STUDIO」でビデオクリップを保存しているフォルダを指定してください。

編集を再開する

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動し、[TOOL BOX] の [編集] ボタン () をクリックする
- 2 [ライブラリ] の [編集情報] タブでビデオクリップのアイコンをダブルクリックする



前回保存した映像データのビデオクリップが [編集トラック画面] に展開されます。

編集を続け、同じファイル名で保存するときはメニューバーの [ファイル] をクリックし、表示されたメニューから [編集情報] → [編集情報を上書き保存] をクリックします。

お願い 編集した映像データについて

- 編集した映像データを本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

「MotionDV STUDIO」では、さらに編集した映像データをデジタルビデオ機器に出力することもできます。この他にもいろいろな編集ツールがあります。詳しい使い方については、ヘルプを確認してください。

MotionDV STUDIO のヘルプの起動方法

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーの [ヘルプ] をクリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする
ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。



「MotionDV STUDIO」の問い合わせ先

『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 94
 - 2 内蔵モデムについて 110

1 LANへ接続する

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

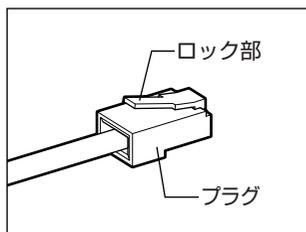
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときには、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ3のケーブルは使用できません。

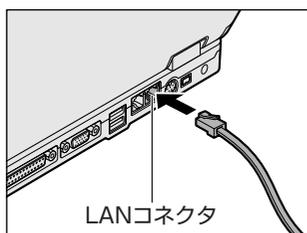
10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときには、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

- 1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る
- 2 LANケーブルのプラグを背面のLANコネクタに差し込む



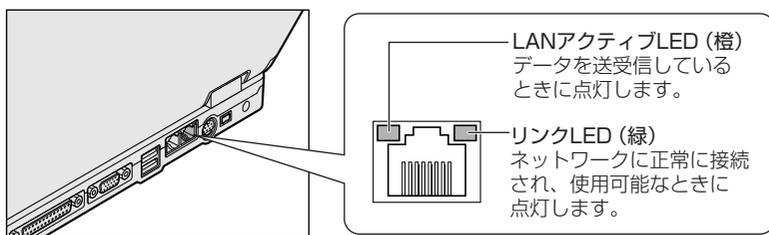
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

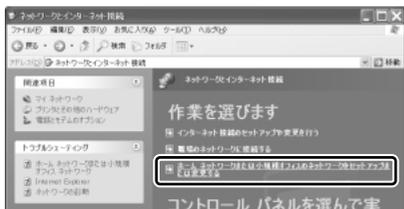
購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

本製品には、無線 LAN 機能が内蔵されています。

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品には IEEE802.11b に準拠した無線 LAN モジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能
11、5.5、2、1Mbps の転送レートから選択可能です。
- 周波数チャネル選択（2.4GHz 帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネジメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化（WEP）

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANは最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- Wi-Fi Alliance 認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。
Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴはWi-Fi Alliance の認定マークです。

【セキュリティ】

WEP (暗号化) 機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめいたします。

 **参照** WEP機能の設定「本項 4-WEP機能を設定する」

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信のレンジを最大限にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 本製品の無線LAN機能を使用できるのは、日本国内のみです。多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象となり、本製品の無線LAN機能は日本の無線規制以外には対応しておりませんので、その他の国、地域では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフにして無線LAN機能を使用しないでください。

2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような機能があります。

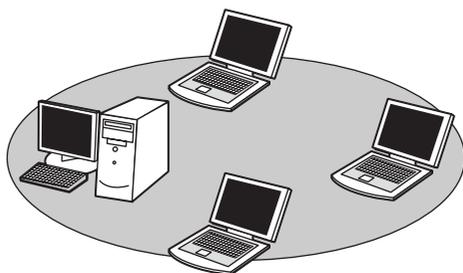
- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する
 **参照** 本項 - 「ピア・ツー・ピアワークグループ」
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

 **参照** 本項 - 「インフラストラクチャネットワーク」

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

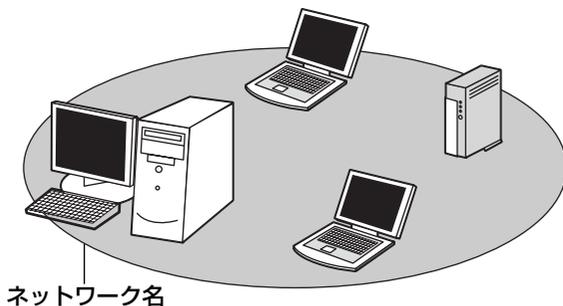
参照 ▶ ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。LAN のバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

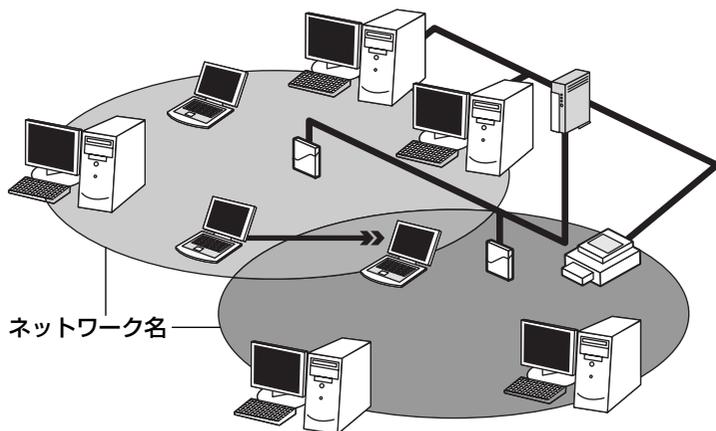
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 → ネットワーク接続のための設定について 「本項 3 基本設定」

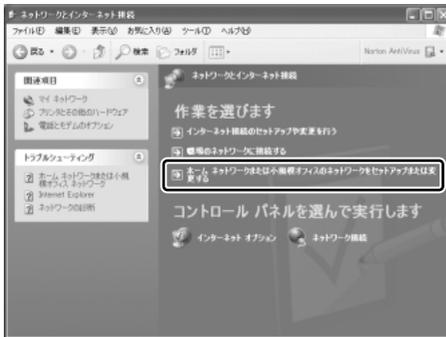
3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

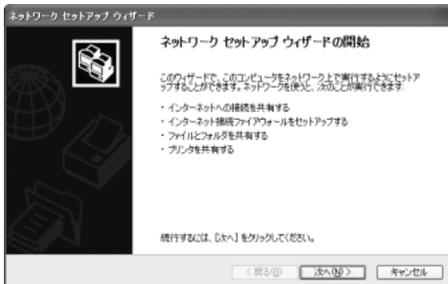
Windows XPは、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

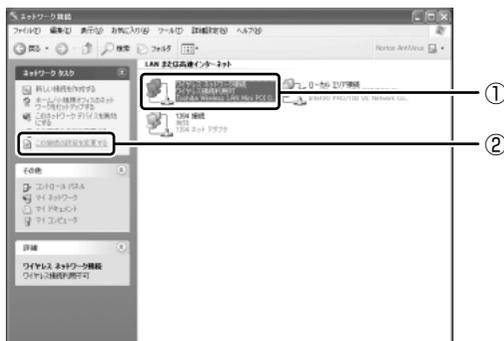


4 詳細設定

無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEP での暗号化には 128 ビットと 64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

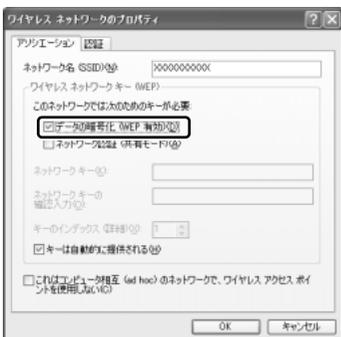
参照 → 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
[キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
 - ① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす
 - ② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
		半角英数文字
高 (128ビット)	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「**** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

お願い

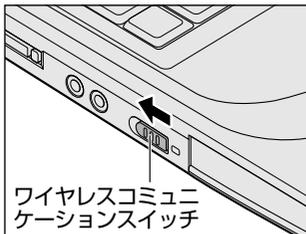
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

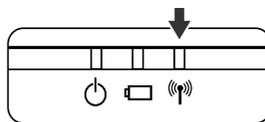
⚠ 警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。
- 本製品の無線 LAN 機能を使用できるのは、日本国内のみです。無線通信は、多くの場合、使用する国の無線通信規制の対象になりますので、その他の国、地域では、無線 LAN 機能を使用しないでください。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線 LAN) LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

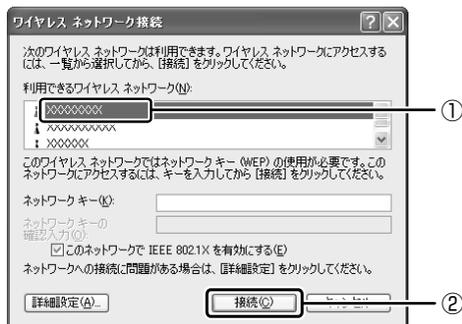
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン (無線 LAN) を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

3 【利用できるワイヤレスネットワーク】の使いたいネットワークを選択し①、【接続】ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは【ネットワークキー】にネットワークキーを入力し、【接続】ボタンをクリックしてください。



接続できると、通知領域に【ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました】とメッセージが表示されます。

4 【スタート】 → 【マイコンピュータ】を開き、【その他】の【マイネットワーク】をクリックする

5 【ネットワークタスク】の【ワークグループのコンピュータを表示する】をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ 操作集

通信状態を確認する

【ワイヤレスネットワーク接続】アイコンをクリックすると【ワイヤレスネットワーク接続の状態】画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。
《サイバーサポート》でも検索できます。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」^{コンフィグフリー}を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名（SSID）により自動でプロファイルを切り替える機能を使えば、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。

また、LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替える機能も用意されています。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動すると通知領域にアイコン（）が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA ConfigFree]
→ [ConfigFree] をクリックする

[ConfigFree（ネットワーク診断）] 画面が表示されます。

[タスクトレイに常駐する] をチェックすると、通知領域にアイコン（）が表示されます。

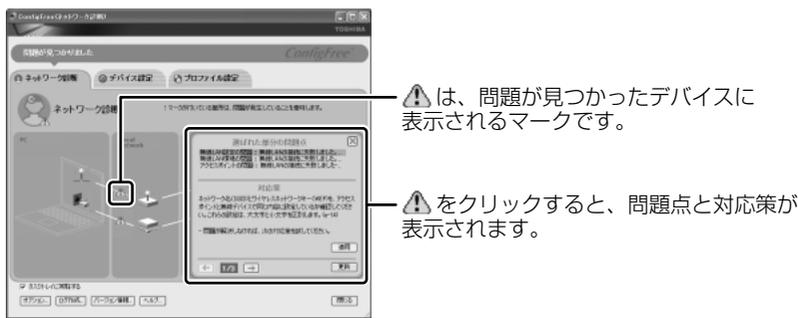
「ConfigFree」を初めて起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要のない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- 1 通知領域の【ConfigFree】アイコン（) をクリックし、表示されたメニューから【ネットワーク診断】をクリックする
[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面が表示されます。

【ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面】



また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタをあわせると、それぞれのデバイスの説明や IP アドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- 1 通知領域の【ConfigFree】アイコン（) をクリックし、表示されたメニューから有効/無効にしたいデバイス名にポインタを合わせ①、有効/無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【その他のデバイス設定】

[ConfigFree] アイコン () → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- 自動切り替え (ケーブル切断)
[ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます。] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。
- ネットワーク接続
[ネットワーク接続] ボタンをクリックすると [ネットワーク接続] 画面が表示され、ネットワーク接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () をクリックする

メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【その他のプロファイル設定】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- プロファイルの追加
[追加] ボタンをクリックすると、プロファイル作成の説明画面が表示されるので、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。
- プロファイルの削除
プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。

- 自動切り替え (SSID)

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。
[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。
接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、東芝製の無線 LAN 機能を内蔵したプロジェクタ (TOSHIBA 液晶データプロジェクタ : TLP-T720J / TLP-T721J。2003年6月現在) との通信設定を簡単に行えるクイックコネクト機能などがあります。

終了方法

- 1 通知領域の [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

[ConfigFree] の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 [ConfigFree] を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA ConfigFree] → [ファーストユーザーズガイド] をクリックする

2 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年6月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Toshiba Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

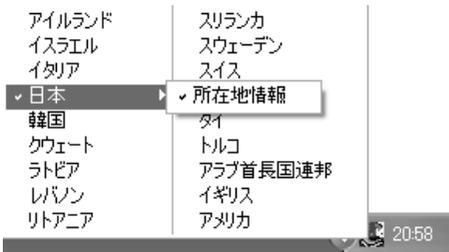
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



- 2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



- 3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

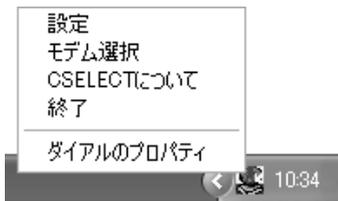
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。プリンタやスキャナ、外付けハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 114
 - 2 PC カードを接続する 116
 - 3 USB 対応機器を接続する 120
 - 4 プリンタを接続する 122
 - 5 テレビを接続する 124
 - 6 外部ディスプレイを接続する 128
 - 7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 129
 - 8 その他の機器を接続する 131
 - 9 メモリを増設する 134

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

 参照 周辺機器の接続場所 「1章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

2 PCカードを接続する

目的に合わせた^{ピシー}PCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
- SCSI カード
- Bluetooth カード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PCカードを使う前に

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE I / II対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

お願い

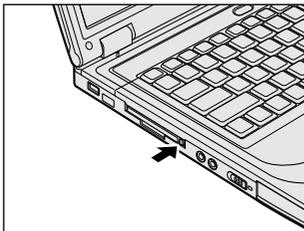
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

1 ダミーカードの取りはずし

本製品には、あらかじめパソコン本体のPCカードスロットにダミーカードがセットされています。PCカードを使う前に取りはずしておいてください。

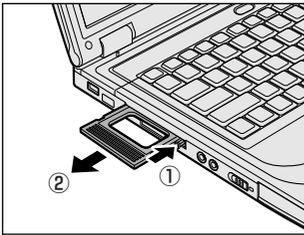
取りはずしたダミーカードは、なくさないように保管してください。

1 イジェクトボタンを押す



イジェクトボタンが出てきます。

- 2 もう1度イジェクトボタンを押し①、ダミーカードをしっかりとつかみ、抜く②



イジェクトボタンは「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

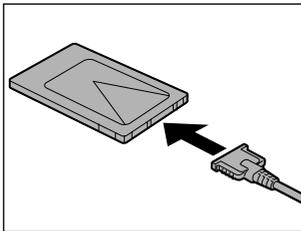
- 3 イジェクトボタンを押す
イジェクトボタンを収納します。

2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

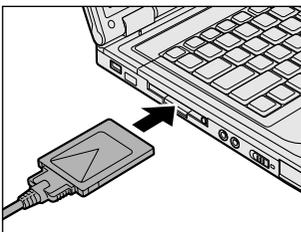
1 取り付け

- 1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なおきに行います。

- 2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

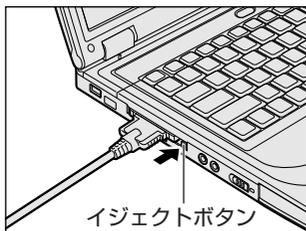
お願い

- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- PCカードを取りはずした後は、必ずダミーカードを取り付けてください。PCカードスロットを空のままにしておくと、ホコリや異物が入り、故障の原因となります。

1 PCカードの使用を停止する

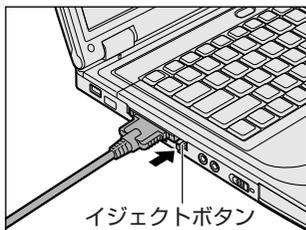
- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



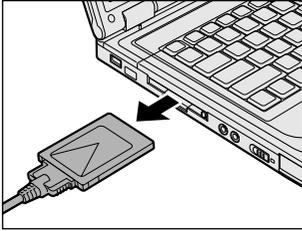
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう 1 度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

6 ダミーカードを挿入する

引きつづきPCカードを使用しない場合は、ダミーカードを取り付けてください。取り付け方法は、PCカードと同様です。

参照 → PCカードの取り付け「本項 1 取り付け」

3 USB 対応機器を接続する

ユーザー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

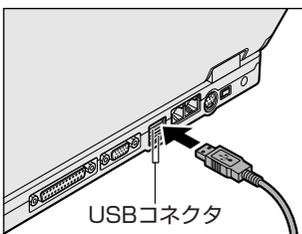
お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直さずか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

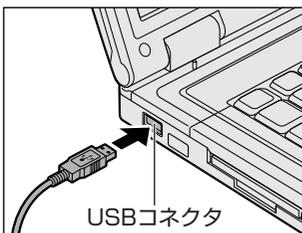
1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

【背面】



プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器)] を安全に取り外します をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4 プリンタを接続する

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続すると、印刷ができます。また、USB コネクタに USB 対応のプリンタも接続できます。接続や設定についての詳細は『プリンタに付属の説明書』を確認してください。

➡ 参照 USB 対応機器について「本章 3 USB 対応機器を接続する」

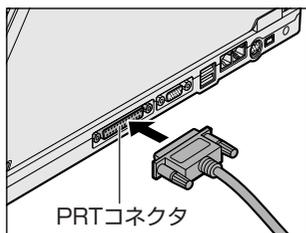
1) プリンタの接続と設定

プリンタの取り付け/取りはずしと、設定方法について説明します。

1 取り付け

PRT コネクタに接続する場合、プリンタとパソコンの電源を切った状態で接続してください。

1 プリンタケーブルのプラグを PRT コネクタに差し込む



2 プリンタケーブルのもう一方のプラグをプリンタに差し込む

プリンタの電源を入れてから、パソコンの電源を入れます。

2 プリンタの設定

【ドライバをインストールする】

プリンタを使うには、ドライバのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、プリンタに添付のフロッピーディスクや CD-ROM を使う場合があります。

プラグアンドプレイに対応している場合は、初めてプリンタを接続すると [プリンタの追加ウィザード] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

プラグアンドプレイに対応していない場合は [プリンタの追加ウィザード] を起動するか、『プリンタに付属の説明書』を読んで、インストールを行ってください。

[プリンタの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [プリンタを追加する] をクリックする

【プリンタポートモードの設定】

使用するプリンタに合わせてプリンタモードの設定が必要です。

1 BIOS セットアップを起動する

 参照 ▶ BIOS セットアップの起動方法「7章 2-①-1 起動方法」

2 [入出力ポート] にカーソルバーを合わせ、(Enter)キーを押す

3 [パラレルポート] を選択し、(Enter)キーを押す

4 [データ転送モード] で使用するプリンタにあったモードに設定する

- 双方向 (標準値) ... 双方向に設定します。大半のプリンタ、またはプリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。
- ECP ECP に対応しています。プリンタポートが双方向の設定において、ECP プリンタで障害が発生した場合には ECP 設定に変更してください。

3 取りはずし

- 1 パソコン本体とプリンタに差し込んであるプリンタケーブルを抜く
使用しているプリンタに合わせて、プリンタの電源を切ってください。

5 テレビを接続する

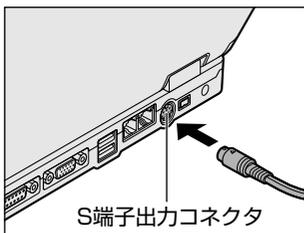
本製品の S 端子出力コネクタとテレビを S 端子ケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

S 端子出力コネクタは、ワイドテレビでアスペクト比（画面の縦・横の比）の異なった映像を自動的に識別する機能を持つ接続端子です。

接続する S 端子ケーブルは、4 ピンコネクタのケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 S 端子ケーブルのプラグをパソコン本体の S 端子出力コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

- 2 S 端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビの S1/S2 映像入力端子に差し込む

2 テレビに表示する

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

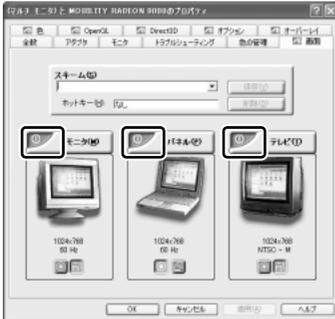
- 必ず、DVD-Video などを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

方法 1—画面のプロパティで設定する

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

4 [画面] タブで表示する装置を切り替える



表示装置名の左上の [有効/無効] ボタンをクリックして切り替えます。

画面は、テレビと外部ディスプレイを接続した場合の表示例です。

次の手順で切り替えられます。

内部液晶ディスプレイ (パネル) だけに表示

↓ ↑ 接続している表示装置の [有効/無効] ボタンをクリック
[モニター] は外部ディスプレイのことです。

内部液晶ディスプレイ (パネル) と接続している表示装置の同時表示 *1

↓ ↑ [パネル] の [有効/無効] ボタンをクリック

接続している表示装置だけに表示

[有効/無効] ボタンの色*2は、次のように変わります。

	テレビ/モニター	パネル
内部液晶ディスプレイ (パネル) だけに表示	赤	グレー
内部液晶ディスプレイ (パネル) と接続している表示装置の同時表示 *1	緑	緑
接続している表示装置だけに表示	グレー	赤

* 1 内部液晶ディスプレイと接続している表示装置の同時表示のとき、プライマリボタン () とセカンダリボタン () を使用して切り替えることにより、動画を表示する装置を選択することができます。

また、内部液晶ディスプレイだけ、接続している表示装置だけに表示する場合は、それぞれのプライマリボタンを選択してください。

* 2 [有効/無効] ボタンの色は、次のような状態を示しています。

- ・ グレー 1つの表示装置に表示
- ・ 緑 2つ以上の表示装置に同時表示
- ・ 赤 表示しない

5 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



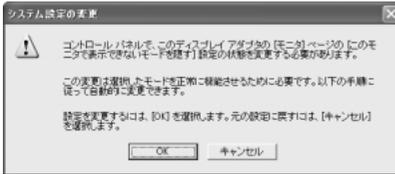
6 [はい] ボタンをクリックする

7 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

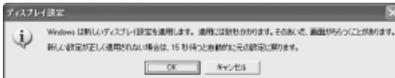
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

- [システム設定の変更] 画面



- [ディスプレイ設定] 画面



- [ディスプレイ設定の確認] 画面

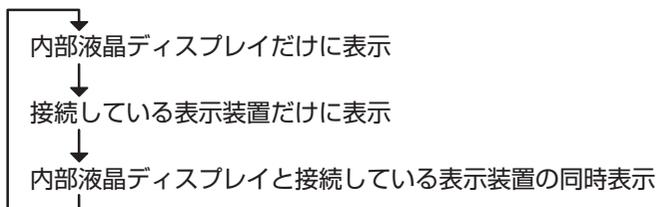


方法2ー (Fn) + (F5) キーを使う

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すたびに、表示装置が切り替わります。

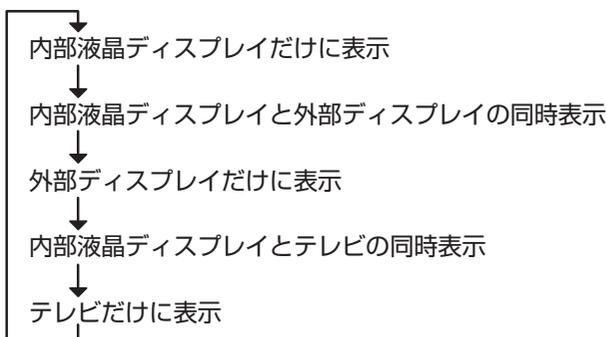
【接続している表示装置が1つの場合】

外部ディスプレイまたはテレビの、どちらか1つの外部表示装置をパソコンに接続している場合は、次の順で切り替わります。



【外部ディスプレイとテレビを接続している場合】

外部ディスプレイとテレビをパソコンに接続している場合は、次の順で切り替わります。



複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows の ログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザの切り替え] で切り替えた場合は、(Fn) + (F5) キーで表示装置を切り替えられません。



ユーザアカウントの切り替え

『基本をマスター 4章 2-② ユーザアカウントを切り替える』

3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んである S 端子ケーブルを抜く

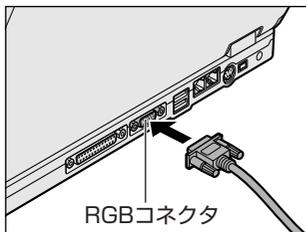
6 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 表示装置を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

電源オプションで画面表示の自動オフを設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合とあわせて説明しています。

▶ 参照 ▶ テレビ接続について「本章 5-2 テレビに表示する」

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

▶ 参照 ▶ ビデオモードについて「付録 1-2 サポートしているビデオモード」

7 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。
i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

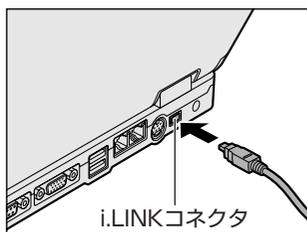
お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取り付けなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。
- 取りはずすときは、i.LINK 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

- MO ドライブなど、記憶装置の i.LINK 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

※デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

8 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

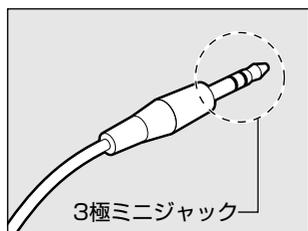
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品では、モノラル録音のみできます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

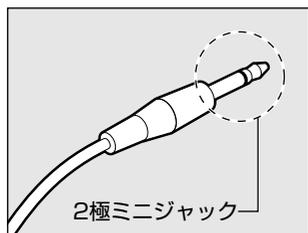
参照 → サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



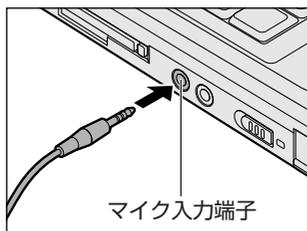
3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

参照 → アプリケーションの問い合わせ先について
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2) ヘッドホン

ヘッドホン出力端子には、ヘッドホンを接続できます。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

 サウンド機能について「1章 7 サウンド機能」

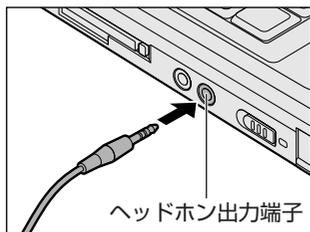
ヘッドホンの音量はWindowsの「ボリュームコントロール」で調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

9 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大1GBまでです。

増設メモリは、本製品で動作が保証されている次のものを使用してください。

容量	型番
128MB	PAME128X（タイプX）
256MB	PAME256X（タイプX）
512MB	PAME512X（タイプX）

動作確認されている上記以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

注意

- ステップル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、または東芝PC集中修理センタに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

静電気について

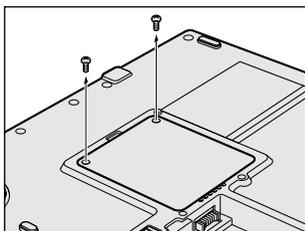
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類ははずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

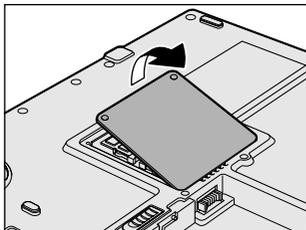
参照▶ バッテリーパックの交換 [5章 1-③ バッテリーパックを交換する]

- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本ははずす

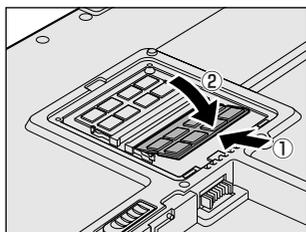


取りはずしたネジは、なくさないようにとっておいてください。

5 増設メモリカバーをはずす

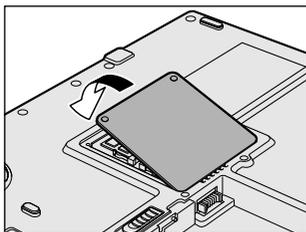


6 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



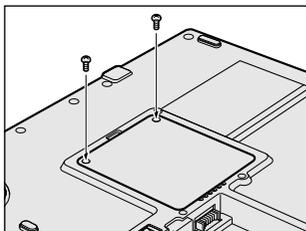
増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

7 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順4ではずしたネジ2本でとめる



9 バッテリーパックを取り付ける

参照 ▶ バッテリーパックの交換 [5章 1-3 ▶ バッテリーパックを交換する]

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

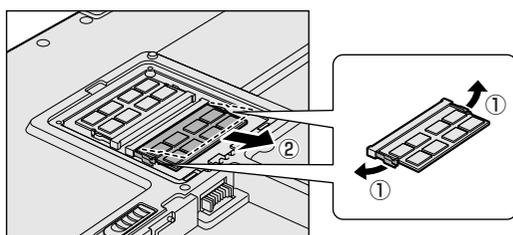
参照 ➡ メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 ➡ バッテリーパックについて「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずす
取りはずしたネジは、なくさないようにとっておいてください。
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順 4 ではずしたネジ 2 本でとめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

参照 ➡ バッテリーパックについて「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ➡ メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「システムのプロパティ」で確認することができます。

「システムのプロパティ」では、オペレーティングシステムのバージョンやCPUの種類についても確認できます。

【確認方法】

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [コンピュータの基本的な情報を表示する] をクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [全般] タブでRAMの数値を確認する

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 140
 - 2 省電力の設定をする 147
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 154

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS042)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

警告

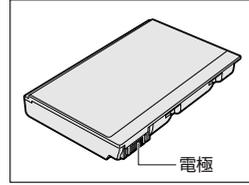
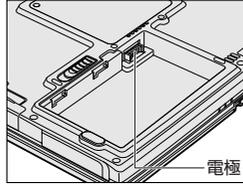
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。東芝PC集中修理センタに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

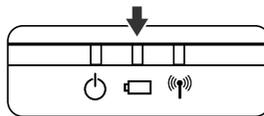


1) バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが青色に点灯すれば充電完了です。



バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery LEDは次の状態を示しています。

青	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ ACアダプタが接続されていない ・ バッテリーが接続されていない (ACアダプタ使用中) ・ バッテリー異常、もしくは充電停止 (ACアダプタ使用中)

2 通知領域の[電源のプロパティ]アイコンで確認する

通知領域の[電源のプロパティ]アイコン()の上にポインタを置くと、バッテリーの状態が表示されます。

 参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」



* 表示されるアイコンは、バッテリーの状態によって異なります。画面はバッテリー駆動時の表示例です。

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [電源のプロパティ] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 参照 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)
- バッテリーのアラームが動作する
電源オプションの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、しばらくするとパソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続しているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が青色に点灯)	約 24 時間
電源 OFF (Power  LED が消灯)	約 24 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFFにかかわらず充電されます。

2 Battery LED が青色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

【充電完了までの時間】

状態	充電時間
電源 ON	約 3.5 ～ 8 時間以上
電源 OFF	約 3.5 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【使用できる時間】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	動作時間
JEITA 測定法 1.0	約 5 時間

【バッテリー駆動時の処理速度】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス処理など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 電源設定モードに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

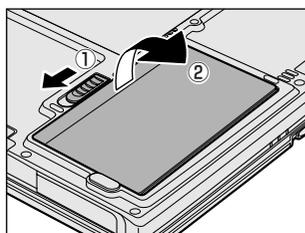
3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け/取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

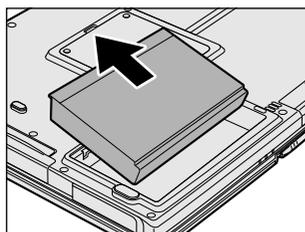
1 取りはずし/取り付け

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- 3 [電源を切る] をクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリー・リリースラッチを奥までスライドさせる①

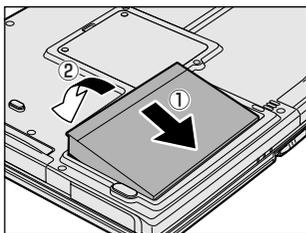


バッテリーパックが持ち上がります②。

- 7 バッテリーパックをパソコン本体から取り出す



8 交換するバッテリーパックをコネクタの位置に合わせて斜めに挿入し①、 静かに差し込む②



新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。

バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、カチッという音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をすると、より長い時間使用できます。

1 電源オプション

省電力の設定は「電源オプション」から行います。

1 「電源オプション」の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [電源オプション] をクリックする
[電源オプションのプロパティ] 画面が表示されます。

2 「電源設定」タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、電源設定モードを設定したり、複数の電源設定モードを作成できます。環境が変化したときに電源設定モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。



【電源設定】 [[XX] の電源設定]

表示されている設定可能な電源設定モードの一覧から、設定したいモードに設定します。[[XX] の電源設定] は、[電源設定] で選択した電源設定モードによって自動的に切り替わります。

購入時には、あらかじめいくつかの電源設定モードが用意されています。

これらの電源設定モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての電源設定モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい電源設定モードを作成することもできます。省電力の詳細設定の変更は、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、スタンバイや休止状態までの時間などが行えます。

【電源設定モードの作成】

- ① 新しく作成する電源設定モードのもとになる電源設定モードをクリックする
- ② [名前を付けて保存] ボタンをクリックする
- ③ 表示された画面にその電源設定モードの名前を入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【電源設定モードの削除】

購入時に用意されている電源設定モードは削除しないでください。

削除してしまったモードを元に戻したい場合には、システムの復元が必要になります。

 **参照** システムの復元について『困ったときは 4 章 2 システムの復元』

- ① 削除する電源設定モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
- ③ 表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

メモ

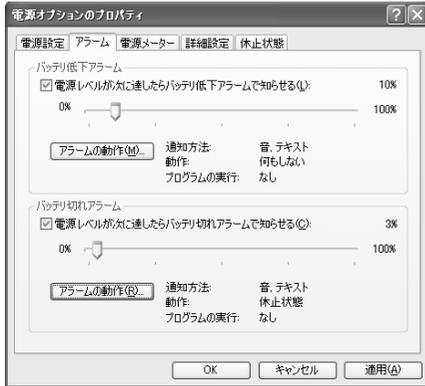
購入時の設定のまま、ACアダプタを電源に接続して30分以上放置した場合、画面表示が自動オフになります。(Shift)キーを押すか、タッチパッドに触れると元の状態に戻ります。パソコン本体の電源が切れているわけではありませんので、電源スイッチを押したりしないでください。

[[XX] の電源設定] で [モニタの電源を切る] を「なし」に設定しておくと、画面の表示が自動オフになることはありません。

ただし、設定を変更すると国内エネルギースタートプログラム規格の基準を満たせなくなります。

3 【アラーム】タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。



4 【電源メーター】タブ

バッテリー残量などのバッテリー情報を表示します。バッテリー残量は目安です。



5 【詳細設定】タブ

〔電源のプロパティ〕アイコンの通知領域への表示、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。



【オプション】

【アイコンをタスクバーに常に表示する】

チェックする（）と現在のバッテリーの状態を示す〔電源のプロパティ〕アイコン（)が通知領域に表示されます。

表示されるアイコンは、バッテリー駆動またはACアダプタ接続時など、バッテリーの状態によって異なります。

〔電源のプロパティ〕アイコンをダブルクリックすると、バッテリーの状態の詳細を示した〔バッテリーメーター〕画面が表示されます。

【スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める】

チェックする（）と、Windowsのパスワードを設定している場合には、スタンバイまたは休止状態から復帰するときにWindowsパスワードの入力が必要になります。

【電源ボタン】

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

【何もしない】

何も動作しないように設定します。

【入力を求める】

[Windowsのシャットダウン] 画面または [コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

【 休止状態 】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[休止状態] タブの [休止状態を有効にする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【 シャットダウン 】

Windows を終了して電源を切ります。

6 【 休止状態 】 タブ

休止状態にするために必要なディスクの領域などを確認し、休止状態を設定します。



【 休止状態 】

【 休止状態を有効にする 】

チェックする（）と、休止状態を有効にします。

7 複数ユーザで使用する場合

「電源オプション」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

 複数のユーザで使用する場合について
『基本をマスター 4章 2 複数のユーザで使用する』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 「電源オプション」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

スタンバイまたは休止状態を実行するには、あらかじめ設定しておく必要があります。

参照▶ スタンバイ、休止状態について「本章 2 省電力の設定をする」

再び処理を行う（電源スイッチを押すなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
システムが起動しない場合は、電源スイッチを 5 秒間押し続けて電源を切った後、もう 1 度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailure で立ち上がります）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリおよび周辺機器の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2) 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [電源オプション] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブの [休止状態] で [休止状態を有効にする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift)キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift)キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [電源オプション] をクリックする
- ③ [詳細設定] タブの [コンピュータの電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する
[何もしない] を選択すると、電源スイッチを押しても何も動作しません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって、スタンバイ/休止状態などに移行するよう設定することができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [電源オプション] をクリックする
- ③ [詳細設定] タブの [ポータブル コンピュータを閉じたとき] で [休止状態] [スタンバイ] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、ディスプレイを閉じてても何も動作しません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを使う前に 160
 - 2 アプリケーションを追加（インストール）する 162
 - 3 アプリケーションを削除（アンインストール）する 163

1 アプリケーションを使う前に

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

▶ 参照 複数のユーザで使用する場合について

『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○*1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○*2
Drag'n Drop CD + DVD	○		○*3	○
BeatJam		○		○*2
LaLaVoice	○*4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)		○		○*2
MotionDV STUDIO		○		○*2
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス W for TOSHIBA		○	○	○*2
ekitanExpress Online	○		○	○
筆ぐるめ		○		○*2
ホームページミックス /R.2	○		○	○
マイペンシル /R.2	○			○
駅すばあと	○			○
Norton Internet Security	○		○	○
イージーボタン ユーティリティ	○		○	○
ConfigFree		○		○*2
いきなりインターネット (infoPepper)		○		○*2
AOL	○			○

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータ管理者のみ		
DION かんたん設定ツール		○	○	○*2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○*2
ODN ダイアルアップ スターターキット	○		○*6	○
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
Powered Internet [POINT]	○		○	○
かるがるネット		○		

- * 1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。
- * 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。
- * 3 CD への書き込みは、複数のユーザが同時に行うことはできません。
- * 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。
- * 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。
- * 6 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。ここでは [プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。
本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCD-ROMから、再インストールして使用することができます。

参照 → 再インストールについて『困ったときは 4章 再セットアップ』

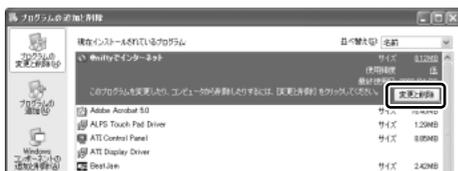
アプリケーションを削除する方法を説明します。
アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 166
 - 2 BIOS セットアップを使う 167

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「デバイスマネージャ」「電源オプション」などがあります。

 [電源オプションについて「5章 2 省電力の設定をする」](#)

BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

2 BIOS セットアップを使う

バイオス
BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続コネクタ）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更はWindows上の「デバイスマネージャ」などで行ってください。
BIOS セットアップとWindows上の設定が異なる場合、Windows上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

1 起動方法

1 電源を入れた直後（起動時）に(F2)キーを押す

起動時に、「dynabook」画面が表示されます。

目安として、この画面表示中に(F2)キーを押します。

パスワードを設定している場合は、登録したパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

参照 ▶ パスワードについて「本節 ② パスワードの設定」

BIOS セットアップが起動します。

起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順1をやり直してください。

2 基本操作

基本操作は次のとおりです。

メニューを選択する	(←)または(→) 上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。
サブメニューを選択する	(↑)または(↓) 画面の中で反転している部分が現在変更できる項目です。
サブメニューの内容を表示する	(Enter)
設定したい項目を選択する	(Tab)、(←)または(→)
項目の内容を変更する	(↑)または(↓)
設定したい項目にチェックを付ける	(Space) もう1度押すとチェックがはずれます。
終了画面を表示する	(Esc) サブメニュー表示中は1つ前の画面に戻ります。

以上のキー操作で、各項目を設定してください。

3 終了方法

1 [終了] メニューを表示する

2 終了方法を選択する

3 (Enter) キーを押す

BIOS セットアップが終了し、Windows が起動します。

2) パスワードの設定

本製品では、BIOS セットアップの [セキュリティ] メニューで、パスワードを設定することができます。

ここで設定するパスワードは、パソコン本体に対するものであり、Windows のログオンパスワードなどとは異なります。

▶ 参照 Windows ログオンパスワード

『基本をマスター 4 章 1 Windows ログオンパスワード』

パスワードを設定すると、BIOS セットアップ起動時の他、パソコンの起動時にパスワードの入力が求められます。

パスワードは、管理者パスワードとユーザーパスワードを設定することができます。ただし、ユーザーパスワードを入力して BIOS セットアップを起動すると、設定できる項目が制限されます。

パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

1) パスワードの登録

1 BIOS セットアップを起動する

2 [セキュリティ] にカーソルバーを合わせ、(Enter)キーを押す

3 [ユーザーパスワード] または [管理者パスワード] にカーソルバーを合わせ、(Enter)キーを押す

管理者パスワードが設定されていないと、ユーザーパスワードの設定はできません。

パスワード設定画面が表示されます。

4 [新規管理者パスワードの入力] (ユーザーパスワードの場合は [新規パスワードの入力]) にパスワードを入力する

パスワードは 10 文字以内で入力します。

11 文字以上入力しても、11 文字以降は無効となります。

入力したパスワードはセキュリティ保護のため、表示されません。またアルファベットの大文字と小文字は区別されますので、よく確認してから入力してください。

パスワードに使用できる文字は、次のとおりです。

使用できる文字	アルファベット*1(半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字(半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全角文字(2バイト文字) ・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・ 単独のキーで入力できる文字の一部 【例】- ^ @ [] : ; . / (スペース) ・ 単独のキーで入力できない(入力するときに$\text{\textcircled{Shift}}$キーなどを使用する)文字 【例】 (パーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など ・ ¥ (エン) $\text{\textcircled{¥}}$キーや$\text{\textcircled{↵}}$キーを押すと¥が入力されます。 	

* 1 大文字と小文字は区別されます。

5 $\text{\textcircled{Enter}}$ キーを押す

[管理者パスワードの再入力] (ユーザーパスワードの場合は [新規パスワードの確認]) にカーソルバーが移動します。

6 もう1度新しいパスワードを入力する

パスワードは手順4と同じパスワードを入力してください。

7 $\text{\textcircled{Enter}}$ キーを押す

[システムの起動] にカーソルバーが移動します。

[システムの起動] にチェックを付けると、パソコンの起動時と BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を求めるように設定できます。

チェックを付けないと、BIOS セットアップ起動時のみにパスワード入力を求めるように設定できます。

パソコンの起動時と BIOS セットアップ起動時にパスワードを設定する場合は、手順8に進んでください。

BIOS セットアップ起動時のみにパスワードを設定する場合は、手順9に進んでください。

8 $\text{\textcircled{Space}}$ キーを押す

[システムの起動] にチェックが付きます。もう1度 $\text{\textcircled{Space}}$ キーを押すとチェックをはずすことができます。

9 $\text{\textcircled{Enter}}$ キーを押す

2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、[パスワードエラー] 画面が表示されます。

$\text{\textcircled{Enter}}$ キーを押して、手順2からやり直してください。

2 パスワードの変更／削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 [セキュリティ] にカーソルバーを合わせ、**(Enter)**キーを押す

3 [ユーザーパスワード] または [管理者パスワード] にカーソルバーを合わせ、**(Enter)**キーを押す

管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されません。

4 [現管理者パスワードの入力] (ユーザーパスワードの場合は [現行のパスワード]) に、登録してあるパスワードを入力する

入力したパスワードはセキュリティ保護のため、表示されません。

5 **(Enter)**キーを押す

入力したパスワードが登録されているパスワードと異なる場合は、[パスワードエラー] 画面が表示されます。**(Enter)**キーを押して手順2からやり直してください。

6 [新規管理者パスワードの入力] (ユーザーパスワードの場合は [新規パスワードの入力]) に、新しいパスワードを入力する

パスワードを削除する場合は、何も入力しません。

7 **(Enter)**キーを押す

8 [管理者パスワードの再入力] (ユーザーパスワードの場合は [新規パスワードの確認]) に、手順6と同じパスワードを入力する

パスワードを削除する場合は、何も入力しません。

9 **(Enter)**キーを押す

[システムの起動] にカーソルバーが移動します。

10 [システムの起動] のチェックを確認し、必要に応じて修正する

[システムの起動] にチェックを付けると、パソコンの起動時と BIOS セットアップ起動時のパスワードを変更／削除できます。

チェックを付けないと、BIOS セットアップ起動時のみのパスワードを変更／削除できます。必要に応じて修正してください。

チェックを付ける、またはチェックをはずすには、**(Space)**キーを押します。

(Space)キーを押すたびに、チェックを付けたりはずしたりできます。

11 (Enter)キーを押す

パスワードが変更されます。

新しいパスワードを入力しなかった場合は、パスワードが削除されます。入力したパスワードが手順6と手順8とで異なる場合は、[パスワードエラー]画面が表示されます。(Enter)キーを押して手順2からやり直してください。

3 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、東芝PC集中修理センタに相談してください。パスワードの解除を東芝PC集中修理センタに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、システムまたはBIOSセットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。

この場合は、次の手順を行ってシステムまたはBIOSセットアップを起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

 **参照** ▶ パスワードを忘れた場合「本項 3 パスワードを忘れてしまった場合」

付録

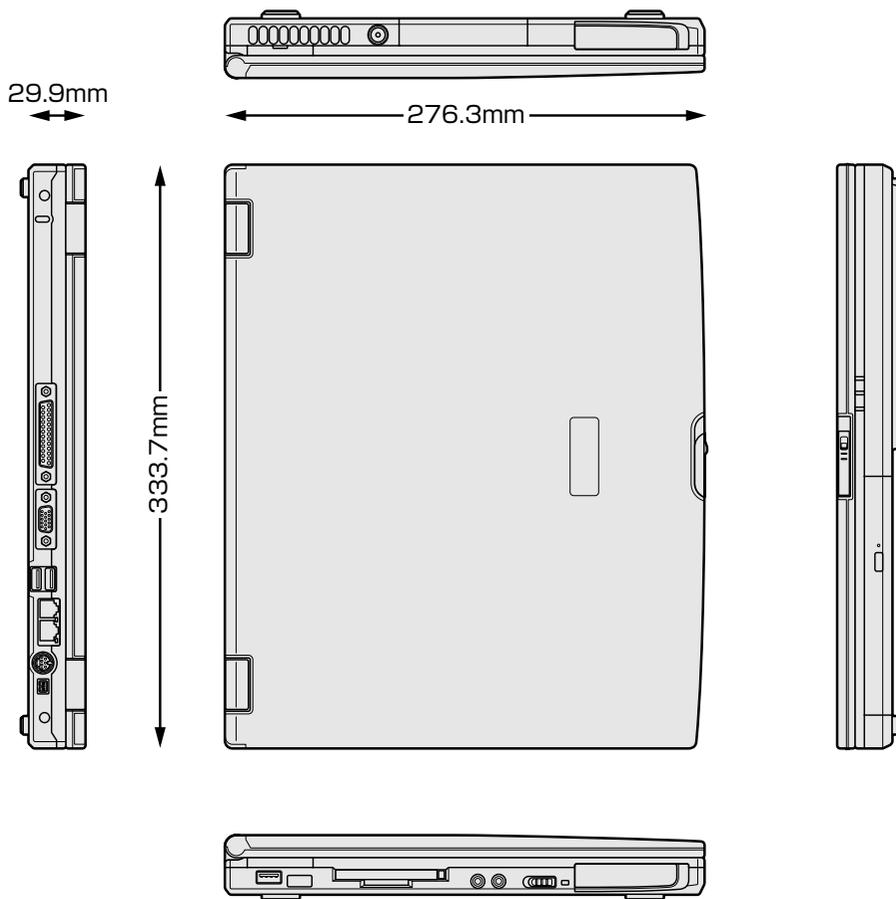
本製品のハードウェア仕様や技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 174
 - 2 技術基準適合について 177
 - 3 無線 LAN について 192

1 本製品の仕様

1 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「1章 5-①-1 表示可能色数」

本製品では次のビデオモードをサポートしています。

16ビット色 (65,536色)		32ビット色 (1,677万色)	
解像度	リフレッシュレート(Hz)	解像度	リフレッシュレート(Hz)
800 x 600	60	800 x 600	60
	70		70
	72		72
	75		75
	85		85
	90		90
	100		100
	120		120
	160		160
	200		200
1024 x 768	60	1024 x 768	60
	70		70
	72		72
	75		75
	85		85
	90		90
	100		100
	120		120
	150		150
	160		160
200	200		
1152 x 864*1	60	1152 x 864*1	60
	70		70
	75		75
	85		85
	100		100
1280 x 1024*1	60	1280 x 1024*1	60
	70		70
	75		75
	85		85
	90		90
	100		100
	120		120
160	160		

16ビット色 (65,536色)		32ビット色 (1,677万色)	
解像度	リフレッシュレート(Hz)	解像度	リフレッシュレート(Hz)
1600 x 1200*1	60	1600 x 1200*1	60
	75		75
	85		85
	100		100
	120		120

* 1：内部液晶ディスプレイでは仮想ディスプレイでの対応となります。

注 1) リフレッシュレートは外部ディスプレイのみに適応しています。

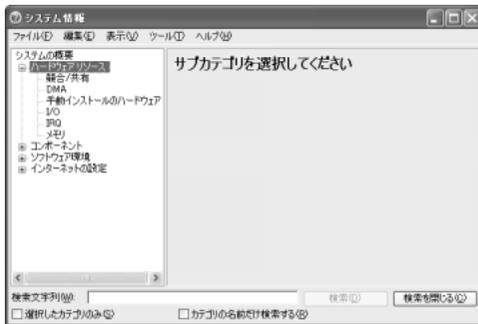
注 2) 1,677万色はディザリング表示です。

3 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



- メモリマップ : [メモリ]
- I/Oポートマップ : [I/O]
- IRQ使用リソース : [IRQ]
- DMA使用リソース : [DMA]

2 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。



『困ったときは 3 章

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



省電力設定について 「5 章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook V8 series

Model number : PAV8513LMEW

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, PRT connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PAV8***** conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年6月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

参照 → 関連情報は《サイバーサポート》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
 - Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

Panasonic CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA750 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、

性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE
EN CAS D'OUVERTURE.
EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED
ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

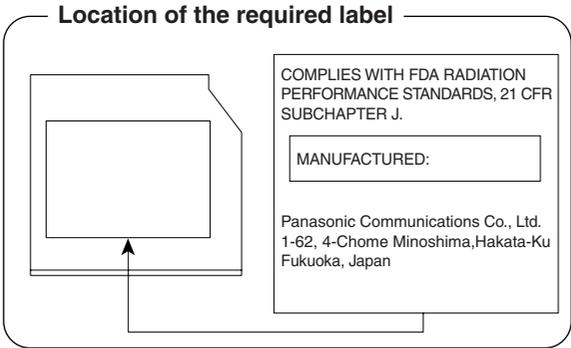
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR
DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR
STRÅLEN.

WARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO!

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET
ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO
SÄTEESEN.



東芝 CD-RW / DVD-ROM ドライブ SD-R2412 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格

EN60825 で “クラス1レーザ機器” に分類されています。レーザ光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
LASER KLASSE 1 PRODUKT
TO EN 60825-1
クラス1レーザ製品

DANGER

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE LASER
EN CAS D'OUVERTURE EXPOSITION
DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG WENN ABDECKUNG
GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

注意

ここを開くと可視レーザー光及び不可視レーザー光が出ます。ビームを直接見たり触れたりしないこと。

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED
ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING

ADVARSEL

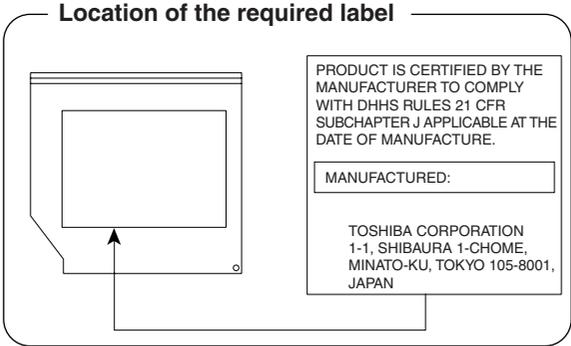
SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR
DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR
STRÅLEN.

VARO!

NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET
ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO
SÄTEESEEN.

VARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.



3 無線 LAN について

1 ネットワーキング特性

互換製品	無線LANのIEEE802.11規格に準拠する製品 (DSSS) Wi-Fi Alliance認定のWi-Fiロゴ取得製品	
ネットワークOS	Microsoft Windows Networking	
ホストOS	NDIS5.1 Miniport Driver	
メディアアクセスプロトコル	CSMA/CA (Collision Avoidance) with Acknowledgment (ACK)	
データレート	High	11Mb/s
	Medium	5.5Mb/s
	Standard	2Mb/s
	Low	1Mb/s

2 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

本製品の無線 LAN 機能を使用できるのは、日本国内のみです。多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象となり、本製品の無線 LAN 機能は日本の無線規制以外には対応しておりませんので、その他の国、地域では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフにして無線 LAN 機能を使用しないでください。

無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線周波数帯	2.4GHz (2400-2483.5 MHz)
変調方式	直接拡散方式 CCK (転送レート High、Medium) DQPSK (転送レート Standard) DBPSK (転送レート Low)

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広がります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります (表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照)。

【無線 IEEE802.11 チャンネルセット】

周波数帯域	2400-2483.5 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462

* 1 購入時に設定されているチャンネルです。

無線 LAN をインストールする場合、チャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。ステーションはチャンネル 1 から 11 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- "ピア・ツー・ピア" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されません。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【1. ステッカー】

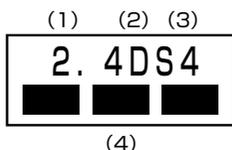
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

5 機器認定表示について

本製品には、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときには無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：WM3B2100

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 03NYDA0113,
03GWYBA0036

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers(米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B) (無線 LAN 標準規格(版数 B))
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

〈ご注意〉

- Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。

総合さくいん

(記号)	.NET Passport	『基本をマスター』 102
	 キー	『応用ガイド』 26
	 キーを使ったショートカットキー	『応用ガイド』 30
(A)	AC アダプタの仕様	『応用ガイド』 18
	Alt キー	『応用ガイド』 26
	Arrow Mode LED	『応用ガイド』 20,28
(B)	BackSpace キー	『応用ガイド』 27
	Battery LED	『応用ガイド』 20
	BCC	『基本をマスター』 67
	BeatJam	『応用ガイド』 56,60
	BIOS セットアップ	『応用ガイド』 167
(C)	Caps Lock LED	『応用ガイド』 20,28
	Caps Lock 英数キー	『応用ガイド』 26
	CC	『基本をマスター』 67
	CD-ROM LED	『応用ガイド』 20
	CD のセット	『基本をマスター』 15
	CD の取り扱い	『応用ガイド』 49
	CD の取り出し	『基本をマスター』 16
	ConfigFree	『応用ガイド』 106
	Ctrl キー	『応用ガイド』 26
	CyberSupport for TOSHIBA	『困ったときは』 14
(D)	Del キー	『応用ガイド』 27
	Disk LED	『応用ガイド』 20
	DMA 使用リソース	『応用ガイド』 176
	Drag'n Drop CD+DVD	『応用ガイド』 68
	『困ったときは』 32
	DVD-Video を観る	『応用ガイド』 73
	DVD のセット	『基本をマスター』 15
	DVD の取り扱い	『応用ガイド』 49
	DVD の取り出し	『基本をマスター』 16
	dynabook.com (サポート情報)	『困ったときは』 20
(E)	End キー	『応用ガイド』 27
	Enter キー	『応用ガイド』 27
	Esc キー	『応用ガイド』 26

(F)	Fn キー	『応用ガイド』 26
	Fn キーを使った特殊機能キー	『応用ガイド』 29
(H)	Home キー	『応用ガイド』 27
	HTML 形式	『基本をマスター』 65
(I)	i.LINK コネクタ	『応用ガイド』 17
	i.LINK 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 130
	i.LINK 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 130
	i.LINK 対応機器を接続する	『応用ガイド』 129
	i.LINK によるネットワーク接続	『応用ガイド』 130
	I/O ポートマップ	『応用ガイド』 176
	IEEE 1394 コネクタ	『応用ガイド』 17
	IEEE 1394 対応機器の取り付け	『応用ガイド』 130
	IEEE 1394 対応機器の取りはずし	『応用ガイド』 130
	IEEE 1394 対応機器を接続する	『応用ガイド』 129
	IME パッド	『基本をマスター』 32
	Ins キー	『応用ガイド』 27
	Internet Explorer	『基本をマスター』 44
	Internet Explorer 画面	『基本をマスター』 45
	Internet Explorer の起動	『基本をマスター』 44
	Internet Explorer の終了	『基本をマスター』 46
	InterVideo WinDVD	『応用ガイド』 73
	IRQ 使用リソース	『応用ガイド』 176
(L)	LAN 機能	『応用ガイド』 94
	LAN ケーブルの接続	『応用ガイド』 94
	LAN コネクタ	『応用ガイド』 17
	LAN コネクタに関するインジケータ	『応用ガイド』 95
	LAN へ接続する	『応用ガイド』 94
(M)	Microsoft IME スタンダードのプロパティ	『基本をマスター』 24
	Microsoft Outlook	『基本をマスター』 83
	Microsoft Outlook 画面	『基本をマスター』 84
	Microsoft Outlook の起動	『基本をマスター』 83
	Microsoft Outlook の終了	『基本をマスター』 89
	Microsoft Outlook のバックアップ	『困ったときは』 41
	MotionDV STUDIO	『応用ガイド』 82

- (N)** Norton AntiVirus 『困ったときは』 29
 Norton Internet Security 『困ったときは』 28
 Numeric Mode LED 『応用ガイド』 20,28
- (O)** Outlook Express 『基本をマスター』 60
 Outlook Express 画面 『基本をマスター』 61
 Outlook Express の起動 『基本をマスター』 60
 Outlook Express の終了 『基本をマスター』 62
 Outlook Express のバックアップ 『困ったときは』 38
 Outlook Plus! 『基本をマスター』 90
- (P)** Pause キー 『応用ガイド』 27
 PC カードスロット 『応用ガイド』 16
 PC カードの取り付け 『応用ガイド』 117
 PC カードの取りはずし 『応用ガイド』 118
 PC カードを接続する 『応用ガイド』 116
 PgDn キー 『応用ガイド』 27
 PgUp キー 『応用ガイド』 27
 Power LED 『応用ガイド』 20
 PrtSc キー 『応用ガイド』 27
 PRT コネクタ 『応用ガイド』 17
- (R)** RGB コネクタ 『応用ガイド』 17
- (S)** SD Card LED 『応用ガイド』 20
 SD メモリカード 『応用ガイド』 50
 SD メモリカードスロット 『応用ガイド』 16
 SD メモリカードのセット 『応用ガイド』 51
 SD メモリカードの取り扱い 『応用ガイド』 53
 SD メモリカードの取り出し 『応用ガイド』 51
 Shift キー 『応用ガイド』 26,27
 Space キー 『応用ガイド』 26
 S 端子ケーブルの取り付け 『応用ガイド』 124
 S 端子ケーブルの取りはずし 『応用ガイド』 127
 S 端子出力コネクタ 『応用ガイド』 17
- (T)** Tab キー 『応用ガイド』 26
 TFT 方式カラー液晶ディスプレイ 『応用ガイド』 37

- (U)** USB コネクタ 『応用ガイド』 16,17
- USB 対応機器の取り付け 『応用ガイド』 120
- USB 対応機器の取りはずし 『応用ガイド』 121
- USB 対応機器を接続する 『応用ガイド』 120

- (W)** Windows Media Player 『応用ガイド』 56,64
- Windows のネットワーク設定 『応用ガイド』 95

- (ア)** 宛先 『基本をマスター』 67
- アドレス 『基本をマスター』 47
- アドレス帳のバックアップ (Outlook Express) 『困ったときは』 39
- アドレス帳を使う (Outlook Express) 『基本をマスター』 79
- アプリケーション CD-ROM 『困ったときは』 77,83
- アプリケーションキー 『応用ガイド』 27
- アプリケーションを起動する 『基本をマスター』 34
- アプリケーションを削除する 『応用ガイド』 163
- アプリケーションを終了する 『基本をマスター』 34
- アプリケーションを追加する 『応用ガイド』 162
- アプリケーションを使う前に 『応用ガイド』 160
- アロー状態 『応用ガイド』 28
- アンインストール 『応用ガイド』 163

- (イ)** イージーボタンユーティリティ 『応用ガイド』 24
- イジェクトホール 『基本をマスター』 16
- イジェクトボタン 『基本をマスター』 16
- インストール 『応用ガイド』 162
- インターネットボタン 『応用ガイド』 16

- (ウ)** ウィンドウ 『基本をマスター』 17
- ウィンドウズキー 『応用ガイド』 26
- ウィンドウの色を変える 『応用ガイド』 41
- ウィンドウの大きさを変える 『基本をマスター』 18
- ウィンドウを移動する 『基本をマスター』 19
- ウィンドウを閉じる 『基本をマスター』 19
- ウィンドウを開く 『基本をマスター』 18

- (エ)** 英数字を入力する 『基本をマスター』 28
- 映像データをパソコンに取り込む 『応用ガイド』 82
- 映像データを編集する 『応用ガイド』 85

	映像を編集する	『応用ガイド』 82
	液晶ディスプレイの取り扱い	『応用ガイド』 42
(オ)	オーバーレイキー	『応用ガイド』 27
	大文字ロック状態	『応用ガイド』 28
	[お気に入り] からホームページを表示する	『基本をマスター』 51
	[お気に入り] に登録する	『基本をマスター』 49
	[お気に入り] のバックアップ	『困ったときは』 37
	[お気に入り] を整理する	『基本をマスター』 52
	オプションの設定 (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 86
	オプションの設定 (Outlook Express)	『基本をマスター』 63
	オリジナル音楽CDを作る	『応用ガイド』 68
	音楽CDを聴く	『応用ガイド』 56
	音楽ファイルを聴く	『応用ガイド』 60
(カ)	海外でインターネットに接続する	『応用ガイド』 110
	外形寸法図	『応用ガイド』 174
	回線切替器	『応用ガイド』 110
	解像度を変更する	『応用ガイド』 40
	外部ディスプレイを接続する	『応用ガイド』 128
	書き込み可能状態	『応用ガイド』 52
	書き込み禁止状態	『応用ガイド』 52
	各部の名前	『応用ガイド』 16
	カタカナ／ひらがなキー	『応用ガイド』 27
	カタカナを入力する	『基本をマスター』 26
	カテゴリ	『応用ガイド』 94
	かな入力	『基本をマスター』 23
	壁紙を変える	『応用ガイド』 39
	漢字を入力する	『基本をマスター』 25
(キ)	キーシフトインジケータ	『応用ガイド』 28
	キーボード	『応用ガイド』 16
	キーボードの取り扱い	『応用ガイド』 31
	記号を入力する	『基本をマスター』 27
	休止状態	『応用ガイド』 155
(ク)	クリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	『応用ガイド』 32
	クリック (マウス)	『基本をマスター』 12

(コ)	ごみ箱	『基本をマスター』 40
	コントロールパネル	『困ったときは』 22
(サ)	再起動	『困ったときは』 25
	最小化	『基本をマスター』 20
	〔最小化〕 ボタン	『基本をマスター』 17
	再セットアップ	『困ったときは』 76
	最大化	『基本をマスター』 20
	〔最大化〕 ボタン	『基本をマスター』 17
	サイバーサポート	『困ったときは』 14
	サウンド機能	『応用ガイド』 44
(シ)	システムインジケータ	『応用ガイド』 16
	システム環境の変更	『応用ガイド』 166
	知っておきたいマナー	『基本をマスター』 91
	周辺機器について	『応用ガイド』 114
	受信したメールを見る (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 88
	受信したメールを見る (Outlook Express)	『基本をマスター』 72
	使用できる CD	『応用ガイド』 47
	使用できる DVD	『応用ガイド』 48
	使用できるメディアと対応するアプリケーション	『応用ガイド』 46
	署名を入れる (Outlook Express)	『基本をマスター』 68
(ス)	数字ロック状態	『応用ガイド』 28
	スクリーンセーバを使う	『応用ガイド』 39
	スクロール (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	スクロール (マウス)	『基本をマスター』 13
	スクロールバー	『基本をマスター』 17
	スタートページ	『基本をマスター』 53
	スタンバイ	『応用ガイド』 155
	スピーカ	『応用ガイド』 16,17
(セ)	静電気について	『応用ガイド』 135
	セキュリティロック	『応用ガイド』 54
	セキュリティロック・スロット	『応用ガイド』 17
(ソ)	操作メニュー	『基本をマスター』 17
	増設メモリスロット	『応用ガイド』 18
	増設メモリの取り付け	『応用ガイド』 135

	増設メモリの取りはずし	『応用ガイド』 137
(タ)	タイトルバー	『基本をマスター』 17
	ダウンロード	『基本をマスター』 57
	タッチパッド	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16
	タッピング	『応用ガイド』 32
	ダブルクリック (タッチパッド)	『基本をマスター』 9
	『応用ガイド』 32
	ダブルクリック (マウス)	『基本をマスター』 13
	ダミーカード	『応用ガイド』 116
(ツ)	ツールバー	『基本をマスター』 17
	通知領域	『基本をマスター』 20
	通風孔	『応用ガイド』 17,18
(テ)	ディザリング表示	『応用ガイド』 37
	ディスクトレイ LED	『基本をマスター』 16
	ディスプレイ	『応用ガイド』 16
	ディスプレイ開閉ラッチ	『応用ガイド』 16
	テキスト形式	『基本をマスター』 65
	デジカメ Walker	『応用ガイド』 79
	デジタルカメラの写真を編集 / 整理する	『応用ガイド』 79
	デスクトップのテーマを変える	『応用ガイド』 38
	テレビに表示する	『応用ガイド』 124
	テレビを接続する	『応用ガイド』 124
	電源オプション	『応用ガイド』 147
	電源コードの仕様	『応用ガイド』 18
	電源コードの取り扱い	『応用ガイド』 19
	電源コネクタ	『応用ガイド』 17
	電源スイッチ	『応用ガイド』 16
	電源設定モード	『応用ガイド』 147
	電源設定モードの削除	『応用ガイド』 148
	電源設定モードの作成	『応用ガイド』 148
	添付ファイルを開く (Outlook Express)	『基本をマスター』 73
(ト)	東芝 PC 集中修理センタ	『困ったときは』 86
	特殊機能キー	『応用ガイド』 31
	時計用バッテリー	『応用ガイド』 143

	[閉じる] ボタン	『基本をマスター』 17
	ドライバをインストールする	『応用ガイド』 115
	ドライブ	『応用ガイド』 16,46
	ドラッグアンドドロップ (タッチパッド)	『基本をマスター』 10
	『応用ガイド』 32
	ドラッグアンドドロップ (マウス)	『基本をマスター』 13
(ナ)	内蔵モデム	『応用ガイド』 110
	内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	『応用ガイド』 110
(ニ)	日本語入力システム MS-IME を起動する	『基本をマスター』 23
	入力に関する制御キー	『基本をマスター』 30
(ハ)	ハードウェアリソース	『応用ガイド』 176
	ハードディスクドライブ	『応用ガイド』 43
	パスワードの削除 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 171
	パスワードの削除 (Windows)	『基本をマスター』 96
	パスワードの設定 (Windows)	『基本をマスター』 94
	パスワードの登録 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 169
	パスワードの入力 (Windows)	『基本をマスター』 95
	パスワードの変更 (BIOS セットアップ)	『応用ガイド』 171
	パスワードの変更 (Windows)	『基本をマスター』 96
	パスワードを忘れてしまった場合 (BIOS セットアップ) ...	『応用ガイド』 172
	パソコン本体の取り扱い	『応用ガイド』 19
	バックアップ	『困ったときは』 32
	バックライト用蛍光管	『応用ガイド』 42
	バッテリー	『応用ガイド』 140
	バッテリー駆動での使用時間	『応用ガイド』 144
	バッテリー充電量を確認する	『応用ガイド』 141
	バッテリーの充電完了までの時間	『応用ガイド』 144
	バッテリーの充電方法	『応用ガイド』 143
	バッテリーパック	『応用ガイド』 18
	バッテリーパックの交換方法	『応用ガイド』 145
	バッテリー・リリースラッチ	『応用ガイド』 18
	バッテリーを長持ちさせるには	『応用ガイド』 144
	半/全キー	『応用ガイド』 26
(ヒ)	左ボタン (タッチパッド)	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16

	左ボタン (マウス)	『基本をマスター』 11
	ビデオモード	『応用ガイド』 175
	表示可能色数	『応用ガイド』 37
	ひらがなを入力する	『基本をマスター』 25
(フ)	ファイル	『基本をマスター』 35
	ファイルの圧縮方法	『基本をマスター』 92
	ファイルの解凍方法	『基本をマスター』 92
	ファイルのコピー	『基本をマスター』 38
	ファイルの作成	『基本をマスター』 36
	ファイルの名前を変更する	『基本をマスター』 38
	ファイルを削除する	『基本をマスター』 40
	ファンクションキー	『応用ガイド』 26
	フォーマット	『応用ガイド』 53
	フォルダ	『基本をマスター』 35
	フォルダのコピー	『基本をマスター』 38
	フォルダの作成	『基本をマスター』 36
	フォルダの名前を変更する	『基本をマスター』 38
	フォルダを削除する	『基本をマスター』 40
	複数のユーザで使用する	『基本をマスター』 97
	プラグアンドプレイ	『応用ガイド』 115
	プリンタケーブルの取り付け	『応用ガイド』 122
	プリンタケーブルの取りはずし	『応用ガイド』 123
	プリンタの設定	『応用ガイド』 122
	プリンタを接続する	『応用ガイド』 122
	分岐アダプタ	『応用ガイド』 110
	文書を保存する	『基本をマスター』 28
(ヘ)	ヘッドホン	『応用ガイド』 132
	ヘッドホン出力端子	『応用ガイド』 16
	ヘルプの起動 (日本語入力システム MS-IME)	『基本をマスター』 33
	ヘルプの起動方法 (Microsoft Outlook)	『基本をマスター』 89
	変換キー	『応用ガイド』 27
	変換し直す	『基本をマスター』 32
	変換の区切りを変える	『基本をマスター』 31
(ホ)	ホームページの画像を壁紙に設定する	『基本をマスター』 55
	ホームページの画像を保存する	『基本をマスター』 55

	ホームページの検索.....	『基本をマスター』 48
	ホームページの表示.....	『基本をマスター』 47
	ホームページを保存する.....	『基本をマスター』 54
	ホイール (タッチパッド).....	『基本をマスター』 10
	ホイール (マウス).....	『基本をマスター』 11
	ポインタ.....	『基本をマスター』 8
	ポインタを動かす (タッチパッド).....	『基本をマスター』 9
	ポインタを動かす (マウス).....	『基本をマスター』 12
	ボリュームコントロール.....	『応用ガイド』 44
(マ)	マイク入力端子.....	『応用ガイド』 16
	マイクロホン.....	『応用ガイド』 131
	マウス.....	『基本をマスター』 11
(ミ)	右クリック (タッチパッド).....	『基本をマスター』 10
	右クリック (マウス).....	『基本をマスター』 13
	右ボタン (タッチパッド).....	『基本をマスター』 8
	『応用ガイド』 16
	右ボタン (マウス).....	『基本をマスター』 11
(ム)	無変換キー.....	『応用ガイド』 26
(メ)	メールにファイルを添付する (Outlook Express) ..	『基本をマスター』 69
	メールボタン.....	『応用ガイド』 16
	メールを検索する (Outlook Express).....	『基本をマスター』 82
	メールを削除する (Outlook Express).....	『基本をマスター』 77
	メールを作成する (Microsoft Outlook).....	『基本をマスター』 87
	メールを作成する (Outlook Express).....	『基本をマスター』 66
	メールを受信する (Microsoft Outlook).....	『基本をマスター』 88
	メールを受信する (Outlook Express).....	『基本をマスター』 72
	メールを整理する (Outlook Express).....	『基本をマスター』 78
	メールを送信する (Microsoft Outlook).....	『基本をマスター』 88
	メールを送信する (Outlook Express).....	『基本をマスター』 70
	メールを転送する (Microsoft Outlook).....	『基本をマスター』 88
	メールを転送する (Outlook Express).....	『基本をマスター』 76
	メールを返信する (Microsoft Outlook).....	『基本をマスター』 88
	メールを返信する (Outlook Express).....	『基本をマスター』 75
	メニューバー.....	『基本をマスター』 17
	メモ帳.....	『基本をマスター』 22

	メモリマップ	『応用ガイド』 176
	メモリ容量の確認	『応用ガイド』 138
	メモリを増設する	『応用ガイド』 134
(モ)	文字キー	『基本をマスター』 21
	文字化け	『基本をマスター』 65
	モジュラージャック	『応用ガイド』 17
	文字を削除する	『基本をマスター』 31
	[元に戻す (縮小)] ボタン	『基本をマスター』 17
(ヤ)	矢印キー	『応用ガイド』 27
(ユ)	ユーザアカウントの設定を変更する	『基本をマスター』 100
	ユーザアカウントを切り替える	『基本をマスター』 98
	ユーザアカウントを追加する	『基本をマスター』 97
(ヨ)	読みかたがわからない文字を入力する	『基本をマスター』 32
(ラ)	ライトプロテクトタブ	『応用ガイド』 52
(リ)	リカバリ CD-ROM	『困ったときは』 77
	リリース情報	『応用ガイド』 9
	履歴	『基本をマスター』 57
(ロ)	ローマ字入力	『基本をマスター』 23
	ローマ字入力一覧表	『基本をマスター』 104
	録音レベルの調整	『応用ガイド』 45
(ワ)	ワイヤレスコミュニケーション LED	『応用ガイド』 20
	ワイヤレスコミュニケーションスイッチ	『応用ガイド』 16
	ワンタッチボタン	『応用ガイド』 21

